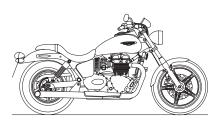
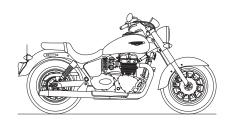
# はじめに

本取扱説明書は、モーターバイク Triumph America および Speedmaster について解説しています。常にモーターバイクと一緒に保管するようにしてください。

## 警告・注意・注記

この取扱説明書の中で特に重要な情報は、以下のような形で示されています：

**⚠ 警告**

この警告記号は、内容が特に重要な指示や手順であることを示しており、適切に守られなかった場合は人身事故を引き起こす結果になりかねません。

**⚠ 注意**

この注意記号は、内容が特に注意の必要な指示や手順であることを示しており、厳重な注意を怠ると、装備に損傷を与えたり、破壊する結果になりかねません。

注記：

- この注記記号は、操作性や便利性に関して役に立つ情報を示します。

# はじめに

## 警告ラベル

モーターバイクには、左のようなシンボルマークの付いているところがあります。このシンボルマークは「注意：取扱説明書を参照してください」の意味で、このマークの下に関係のある事柄についての図解が載っています。

本取扱説明書の中の関連事項についての注意を参照しないで、モーターバイクを運転したり、調整を行なったりしてはなりません。

この記号のついたラベルの位置はすべて、*10*ページと*11*ページに記載されています。必要と思われる場合には、関連情報を記載したページにも同じ記号をつけてあります。

## 整備

お買い求めのモーターバイクを安全で故障のない状態で末永くお使い頂くために、整備は正規Triumphディーラーのみに実施してもらってください。

お買い上げのTriumphモーターバイクを適切に整備し維持するのに必要な知識、設備、技術を有するのは、正規Triumphディーラーだけです。

最寄りのTriumphディーラーの所在地を見つけるには、Triumph のウエブサイト www.triumph.co.uk で探すか、貴国の正規ディストリビューターにお電話ください。ディーラー等の住所は、本取扱説明書に付随しているサービスレコードブックに記載されています。

## 騒音防止システム

騒音防止システムの改造は禁じられています。

下記の項目は法律で禁止されている可能性があります：

- 最終的な購入者への販売または引渡し前や使用中において、整備、修理、交換以外の目的で、新車に組み込まれている騒音防止用の装置や設計要素を、誰であろうと取り外したり、作動不能にしてはならず、
- 装置やデザインを改造した車両は、理由の如何を問わず、撤去するか操作不能にします。

## 取扱説明書

このたびはTriumphモーターバイクをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。本モーターバイクは、Triumph 社の実証済みのエンジニアリングと徹底的なテスト、そして、優れた信頼性、安全性、高性能を追求してやまない努力が結集されて生まれた製品です。

実際に走行を始める前に、この取扱説明書を読み、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を熟知してください。

本書には、安全走行の秘訣が盛り込まれていますが、モーターバイクを安全に運転するのに必要なテクニックやスキルのすべてが網羅されてはいません。Triumph 社は、本モーターバイクの安全運転を保証するために、ライダーの皆様すべてにトレーニングを受けられるよう熱心にお勧めしています。

本取扱説明書は、以下の言語でも現地のディーラーから入手できます。

- イタリア語
- オランダ語
- スウェーデン語
- スペイン語
- ドイツ語
- フランス語
- ポルトガル語

**警告**

この取扱説明書と、モーターバイクと共にお届けしているその他の解説書はすべて、お買い上げのモーターバイクの永久部品とお考え頂く必要があります。後になってお使いのモーターバイクを売却される時は、必ずバイクと共に譲渡してください。

ライダーの皆様には、走行前にこの取扱説明書とお買い上げのモーターバイクと共にお届けしたその他の解説書を読んで頂き、モーターバイクの操縦装置の正しい操作方法、特徴、能力、限界を余すところなく知って頂かなくてはなりません。

お持ちのモーターバイクをみだりに他人に貸さないでください。バイクの操縦装置、特徴、能力、限界を良く知らないで走行した場合、事故を引き起こす恐れがあるからです。

## Triumph との絆

お客様との関係は、Triumph 購入の時点で終わるのではありません。弊社製品を購入されたお客様に、その後体験されたことをフィードバックしていただくことは、製品開発とサービス向上に極めて重要です。正規販売店にお客様のメールアドレスをお伝えいただき、登録をお願い申し上げます。お客様のメールアドレス宛てに、オンライン顧客満足度調査書を送信いたしますので、フィードバックをお願い申し上げます。

Triumph チームより

# はじめに

## 情報

本刊行物に記載されている情報は、印刷時点で入手可能な最新情報を基にしています。Triumph 社は、予告なしに、いかなる義務を負うこともなく、いつでも内容を変更する権利を有します。



出版部品番号 3856536 第 4 版

## 目次

本取扱説明書は、いくつかの章から成っています。下記の目次には、各章の最初のページのページ番号が記載されています。主要な章の最初のページには更に目次がついていますので、必要な項目を特定して探し出すのに役立ちます。

# はじめに－安全第一

## モーターバイク

**警告**

このモーターバイクはオンロード専用に設計されています。オフロードでの使用には適しません。

オフロード走行をした場合、モーターバイクのコントロールが失われて人身事故に帰する恐れがあります。

**警告**

本モーターバイクは、トレーラーの牽引やサイドカーの取り付けを意図して設計されていません。サイドカー及び / 又はトレーラーの取り付けは、操縦性を損なって事故を招く恐れがあります。

**警告**

本モーターバイクは、ライダーを単独で、または（タンデムシートが装備されている場合は）ライダーとひとりの同乗者を一緒に運べる二輪車として使用するように設計されています。

ライダー、（ある場合は）同乗者、アクセサリー、荷物の重量合計が、最大車載限度の200 kgを超過してはなりません。

## 燃料と排気ガス

**警告**

**ガソリンは非常に可燃性の高い物質です：**

給油の際は必ずエンジンを止めてください。

喫煙中、あるいは付近に火気のある所で給油したり、フューエルフィラーキャップを開けたりしないでください。

給油中に、エンジンや排気管、サイレンサーの上にガソリンをこぼさないように注意してください。

ガソリンを飲み込んだり、吸い込んだり、目に入れてしまった時は、即座に医師の手当てを受けてください。

皮膚にこぼれた場合はすぐに石鹸と水で洗い落とさなくてはなりません。ガソリンで汚れた衣服は、即座に脱ぐ必要があります。

ガソリンに触れると、皮膚に火傷その他の深刻な損傷を与える結果になりかねません。

**警告**

閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間でもエンジンをかけっぱなしにしないでください。排気ガスは有毒なので、短時間の内に意識が失われて死に至る恐れがあります。モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

## ライディング

**警告**

疲労時、飲酒後あるいは眠気を催すような薬を服用した時は、バイクを運転してはなりません。

アルコール、その他の薬剤の影響を受けている状態で運転するのは違法です。

疲労時、あるいはアルコールや他の薬剤の影響下にある状態で乗車すると、ライダーのモーターバイクを制御し続ける能力が減じ、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。

**警告**

ライダーはバイクの運転免許証を取得していなければなりません。免許なしでモーターバイクを運転するのは違法であり、起訴につながる可能性があります。

免許取得に必要な運転テクニックについて、正規のトレーニングを受けずにモータバイクを運転することは危険であり、モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあります。

**警告**

常に安全を心がけながら運転し、この「はじめに」の章の別のところに記載されている防具類を身につけてください。事故に出逢っても、バイクの場合は自動車のように衝撃緩和装置で守られているわけではないことを常に念頭に置いてください。

**警告**

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。

高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。

悪天候や交通混雑といった、危険な走行状態に陥りやすい状況下では、必ず減速するようにしてください。

**警告**

常に路面の状態、交通状況、風の状態の変化に注意し、適切に対応してください。二輪車は、事故を引き起こしかねない外的要因に常に左右されます。それらの外的要因には以下のようなものがあります：

- 通過する車両からの横風
- 道路にできた穴、デコボコ道、崩れている道
- 悪天候
- ライダーのミス

操縦特性および操作特性に慣れるまでは、交通量の多い道を避けて、常に節度のあるスピードでモーターバイクを運転してください。絶対に法定制限速度を超えてはなりません。

## ヘルメットと防護服

**警告**

モータバイクに乗る時、ライダーと同乗者は、バイク用のヘルメット、防護メガネ、グローブ、ブーツ、（膝と足首まわりがフィットする）ズボン、明るい色のジャケットを必ず着用してください。派手な色の衣服は、ライダー（または同乗者）を目立たせ、道路上の他の車の運転者達の注意を引くことができるため、より安全です。適切な防護服の着用は、完璧な防護は不可能であるものの、走行中に負傷する危険を低減することができます。

**警告**

頭をケガから守ってれくれることから、ヘルメットはライディング装備の中で最も大切なものです。ライダー、同乗者とも、頭にぴったりフィットする、かぶり心地の良いヘルメットを慎重に選ばなくてはなりません。鮮やかな色のヘルメットは、ライダー（または同乗者）を目立たせ、通行中の車の運転者達の注意を引くため、より安全です。

事故の際、オープンフェースヘルメットでも防護効果はありますが、フルフェース型の方が効果は上がるでしょう。

より良い視界を得、目を保護するために、常にバイザーや認定ゴーグルを着用してください。

cbma

## ハンドルとフットレスト

**警告**

ライダーは、いつも両手でハンドルを握りながらバイクをコントロールし続けなくてはなりません。

ハンドルから手を放すと、モーターバイクの制御と安定性が著しく損なわれ、コントロールを失って事故を引き起こす危険があります。

**警告**

警告:モーターバイクを運転している時は、ライダーおよび同乗者は、必ず装備されているフットレストを使用してください。

フットレストを使用することにより、ライダー、同乗者ともに、モーターバイクの部品にうっかり接触する危険や、衣服の一部が巻き込まれて負傷する危険を軽減することができます。

## 駐車

**警告**

モーターバイクから離れる時は、必ずエンジンを止め、イグニッションキーを抜いてください。キーを抜き取ることにより、資格のない人や訓練を受けていない人がバイクを使用するリスクを低減することができます。

モーターバイクを駐車させる時は、必ず以下の点にご注意ください:

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。歩行者、動物、子供がモーターバイクに触れる可能性のある場所には駐車しないでください。

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。このような状態の場所に駐車すると、モーターバイクの転倒につながりかねません。

詳しくは、この取扱説明書の「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

## 部品とアクセサリー

**警告**

オーナーの皆様にご承知頂きたいのは、「Triumph モーターバイク用として承認している部品、アクセサリー、改造」とは、Triumph 社が正式に承認した部品やアクセサリーを使用し、取付作業は正規ディーラーが行なうことを指していることです。

特に、電装品や燃料システムを取り外したり、あるいは電装品や燃料システムに取り付けなければならない、部品やアクセサリーの取り付けや取り替えは極めて危険です。そのような改造は、安全上の問題を引き起こす恐れがあります。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造は、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で悪影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

承認されていない部品やアクセサリーの取り付けや改造、承認されている部品やアクセサリーの取り付けであっても、改造を認可されていない者が行なったために起きた故障に対して、Triumph 社は一切責任を負いません。

## 整備 / 装備

**警告**

本Triumphモーターバイクの正しい操縦や安全な操縦に関して不審な点がある時は、いつでも正規Triumphディーラーに相談してください。

正しく機能していないモーターバイクを操縦し続けると、故障をいっそう悪化させ、安全性をも損なう恐れがあることを、念頭に置いてください。

**警告**

警告:限界以上に磨耗したバンク角度インジケータの付いた、つまり前側ラジアスティップが 10 mm 以上磨耗しているモーターバイクを使用すると、モーターバイクが危険な角度でバンクすることになります。

危険な角度でバンクすると不安定な状態を引き起こし、コントロールが失われて人身事故を起こす恐れがあります。

**警告**

必ず、法律で規定された機器のすべてが装備され、正しく機能しているようにしてください。

モーターバイクのライト、サイレンサー、排気系統、騒音防止システムを取り外したり、改造したりすることは、違法となる場合もあります。

不適当なあるいは不法な改造を行なうと、操縦性、安定性、その他のモーターバイク操作面で影響を及ぼし、人身事故を引き起こす結果になりかねません。

**警告**

モーターバイクが事故に巻き込まれたり、衝突や転倒を起こした場合は、必ず正規Triumphディーラーで点検、修理を受けてください。どのような事故であってもモーターバイクに損傷を与えている可能性があり、適切に修理されなければ、人身事故に帰することもあり得る、第二の事故につながる恐れがあります。

# 警告ラベル

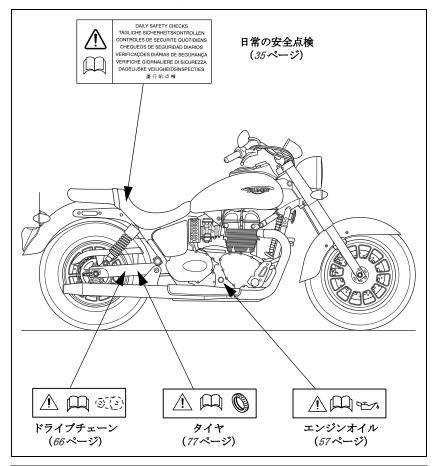
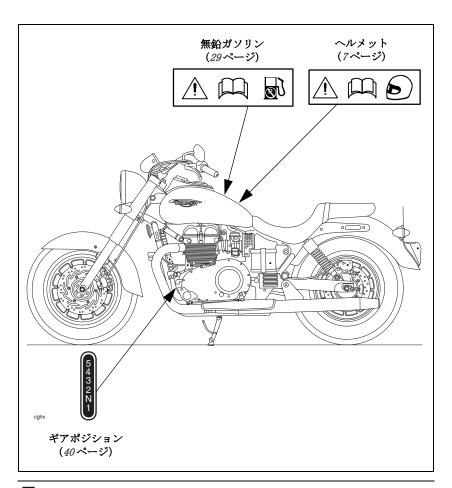
## 警告ラベルの位置 – America および Speedmaster

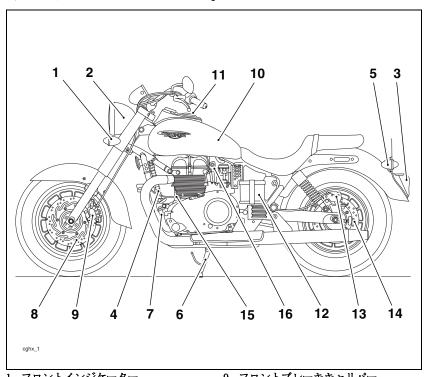
このページと次のページに詳述されているラベルは、本取扱説明書に記載されている重要な安全情報に注意を促してもらうためのものです。運転前に必ずラベルを良く読み、ラベルに記載されている内容を理解し、ラベルの内容に従うようにしてください。

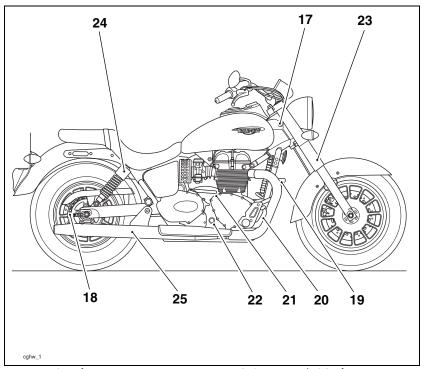
日常の安全点検
（*35* ページ）

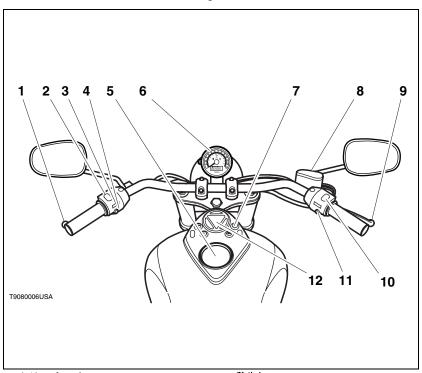
ドライブチェーン
（*66* ページ）

タイヤ
（*77* ページ）

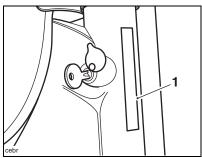
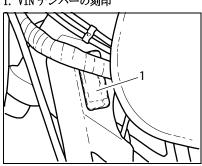
エンジンオイル
（*57* ページ）

## 警告ラベルの位置 - America および Speedmaster（続き）

# 部品の名称

## 部品の識別 - America および Speedmaster

1. フロントインジケーター
2. ヘッドライト
3. リアライト
4. オイルクーラー
5. リアインジケーター
6. サイドスタンド
7. ギアチェンジペダル
8. フロントブレーキディスク
9. フロントブレーキキャリパー
10. 燃料タンク
11. フューエルフィラーキャップ
12. バッテリー
13. リアブレーキキャリパー
14. リアブレーキディスク
15. クラッチケーブル
16. チョークコントロール

## 部品の識別 - America および Speedmaster (続き)

17. ステアリングロック
18. ドライブチェーン
19. リアブレーキフルードリザーバ
20. リアブレーキペダル
21. オイルフィラープラグ
22. オイルレベルサイトグラス
23. フロントフォーク
24. リアサスペンションユニット
25. サイレンサー

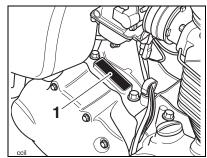
## 部品の識別 - America および Speedmaster （続き）

1. クラッチレバー
2. ヘッドライトディップスイッチ
3. 方向指示器スイッチ
4. ホーンボタン
5. フューエルフィラー
6. スピードメーター
7. 警告灯
8. フロントブレーキフルードリザーバ
9. フロントブレーキレバー
10. エンジンストップスイッチ
11. スターターボタン
12. タコメーター（Speedmaster のみ）

# シリアルナンバー

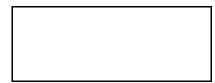
## 車体識別番号 (VIN)

1. VINナンバーの刻印

1. VINプレートの位置

車体識別番号は、ステアリングヘッドに刻印されています。

また、モーターバイクの左側のステアリングヘッドのすぐ後ろにあるプレートに表示されています。

## エンジンシリアル番号

1. エンジンシリアル番号

エンジンシリアルナンバーは、ドライブチェーンスプロケットカバーのすぐ上にあるクランクケースに刻印されています。

以下の空欄に車体識別番号を記入してください。

以下の空欄にエンジンシリアル番号を記入してください。

# 一般情報

## 目次

# 一般情報

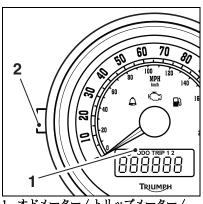
## 計器類

America および Speedmaster

1. スピードメーター
2. オドメーター
3. 燃料レベル低下表示灯
4. エンジン管理誤作動表示灯（ＭＩＬ）
5. タコメーターの位置（Speedmaster のみ）
6. ハイビーム表示灯
7. 方向指示灯
8. ニュートラル表示灯
9. 油圧低下警告灯
10. トリップメーターリセットノブ
11. アラーム状況表示灯（アラームは取付アクセサリー）

## スピードメーター

スピードメーターは、モーターバイクの走行速度を表示します。

## オドメーター / トリップメーター

1. オドメーター / トリップメーター / 時計
2. リセットボタン

オドメーターは、モーターバイクの走行距離の総計を表示します。

トリップメーターはふたつあります。いずれのトリップメーターも、表示部の数字（メーター）を最後にゼロにリセットした時点からのモーターバイクの走行距離を表示します。

**警告**

モーターバイクの走行中にスイッチでオドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えたり、トリップメーターをリセットしたりしないでください。バイクを制御し損なって事故を引き起こす恐れがあるからです。

オドメーターとトリップメーターの表示モードを切り替えるには、所期の表示が出るまでリセットボタンを押し続けます。以下の順序で表示部が変わります。

- Odometer（オドメーター）
- Trip meter 1（トリップメーター 1）
- Trip meter 2（トリップメーター 2）
- 時計

### トリップメーターのリセット

一方のトリップメーターをリセットするには、そのリップメーターを選択して表示させ、リセットボタンを 2 秒間押してゼロにします。2 秒後、表示部のトリップメーターがゼロにリセットされます。

## 時計の調節

**⚠ 警告**

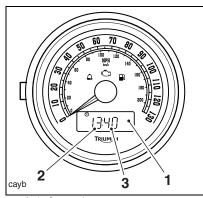
モータバイクのバランスを崩して事故につながる恐れがあるので、運転中に時計を調整しないでください。

時計をリセットするには、イグニッションをオンにします。表示部に時計が表示されるまで、リセットボタンを押します。

4 秒間、リセットボタンを押し続けます。4 秒後、24 Hr または 12 Hr が点滅して表示されます。リセットボタンを押して、所期の時計ディスプレイを選択します。所期の表示が出たら、時間表示が点滅して表示されるまで、リセットボタンから指を放します。

時間表示をリセットするにあたり、時間表示が点滅していることを確かめます。リセットボタンを押して、設定を変更します。ボタンを 1 回押すごとに、設定がひとけたずつ変わります。ボタンを押したままにすると、画面の数字はひとつずつ増加し続けます。

現在の時間が表示されたら、6 秒間リセットボタンから指を放します。分表示が自動的に点滅し始めます。分は、時と同じやり方で合わせます。

「時」表示と「分」表示の両方が正しく設定されたら、リセットボタンから 6 秒間指を放しておきます。これで表示部の点滅が自動的に止まります。

1. 時計ディスプレイ
2. 時
3. 分

## タコメーター（Speedmaster のみ)

タコメーターは、エンジンの毎分回転速度を rpm（r/min）で表示します。タコメーターの計器面の右側は「レッドゾーン」です。毎分エンジン回転速度（r/min）がレッドゾーンにある時は、推奨エンジン速度の上限を超え、最高の性能を発揮するエンジン速度の範囲を超えています。

**注意**

エンジンの rpm（毎分回転速度）がレッドゾーンに表示されるようなことは絶対に避けてください。エンジンに多大な損傷を与えかねません。

## 警告灯

### 方向指示器

方向指示器のスイッチが入っているとき、方向指示器の警告灯が同じテンポで点滅します。

### ハイビーム

ハイビーム警告灯は、イグニッションスイッチがオン、ヘッドライトディプスイッチが「ハイビーム」にセットされている時に点灯します。

### ニュートラル

ニュートラル警告ランプは、ギアがニュートラル（ギアが選択されていない）の状態であることを示します。イグニッションスイッチが ON の状態でギアをニュートラルにすると、ニュートラル警告灯が点灯します。

### エンジン管理誤作動インジケータランプ

エンジン管理システムの誤作動表示灯は、イグニションスイッチをオンにした時に（それが機能していることを示すために）点灯しますが、エンジンがかかっている時に点灯することはありません。

エンジンがかかっている時に誤作動表示灯が点灯した場合は、エンジン管理システムによってコントロールされている、ひとつ又は複数のシステムに故障が生じたことを示しています。そのような状況になったとしても、エンジンがかからないほど深刻な故障でなければ、走行を続けられるようにエンジン管理システムがスイッチを「リンプ・ホーム」モードに切り替えます。

**警告**

誤作動表示灯が点灯している時は、スピードを落とし、必要以上に長く乗り続けないでください。故障は、エンジン性能、排気物質、燃費に悪影響を及ぼす恐れがあります。エンジン性能の低下は、危険なライディングコンディションの原因となることがあり、バイクは制御不能になって事故を招く恐れがあります。できるだけ早く正規Triumphディーラーに連絡し、故障を調べて修理してもらってください。

注記：

- イグニッションスイッチをオンにした時に誤作動表示灯が点滅する場合は、できるだけ早く正規 Triumph ディーラーに連絡し、そのような状態を正常化してもらってください。このような状態の時、エンジンは始動しません。

### 燃料低下

タンク内の残存燃料が約3.5リッターになると、燃料レベル低下表示灯が点灯します。

### 油圧低下警告

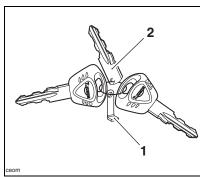
油圧低下警告灯は油圧が危険なレベルまで下がった時 、(またはイグニッションスイッチが ON の状態でエンジンが止まっている時) に点灯します。エンジンが回転中は油圧が充分にあれば、ランプはオフになっています。

モーターバイクを始動させる際、イグニションを ON にするとランプが点灯し、エンジンが回転し始めるとすぐ消滅することを確認してください。

**注意**

油圧低下警告灯が点いた場合は、ただちにエンジンを止めてください。不具合が直るまでは、エンジンを再始動しないでください。

油圧低下警告灯が点いている時にエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与える結果になることがあります。

## イグニッションキー

1. キーナンバータグ
2. スペアキーブレード

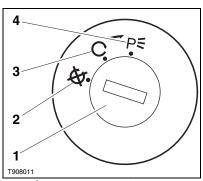
イグニションキーはイグニションスイッチのみ作動します。別なキーがステアリングロックを作動します。

モーターバイクは出荷の際に、2つのイグニッションキーとキー番号を記したタグを一緒にお届けします。キーナンバーを書き留め、スペアキーとキーナンバータグをモーターバイクから離れた安全な場所に保管してください。

最寄りの正規 Triumph ディーラーは、キーナンバーのデータに基づいてカットした代替キーを供給したり、オリジナルをマスターキーに使って新しいキーをカットしたりできます。

**注意**

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

## イグニッションスイッチ

1. イグニッションスイッチ
2. OFF ポジション
3. ON ポジション
4. PARK ポジション

### スイッチの位置

スイッチはモーターバイクの左側、サイドカバーの後方に付いています。

### スイッチ操作

これはキーで操作するスイッチで、3つのポジションがあります。キーは OFF または P (PARK) ポジションにある時のみ、スイッチから抜き取ることができます。

スイッチを OFF から ON に切り換えるには、キーを差し込んで時計回りに回し ON ポジションにします。

スイッチを ON から PARK に切り換えるには、キーバレルをもっと深くロックに押し込み、時計回りに回して PARK ポジションにします。PARK ポジションは、ポジションライトの点灯が義務付けられている状況で、一時的にバイクのそばを離れる時だけ使ってください。

キーを OFF の位置に戻すには、キーを反時計回りに回します。

## イグニッションスイッチポジション

| | |
|---|---|
| | エンジン オフ全電装回路オフ |
| | エンジン オン電装系統は全て使用可能 |
| P | エンジン オフテール、サイド、ライセンスプレートライトはオン、他の電装回路はオフ |

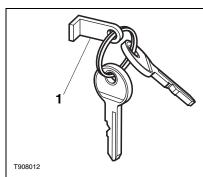
**警告**

警備と安全のために、モーターバイクを残して置く場合には、必ずイグニションをOFFまたはPARKポジションにし、キーを取り外してください。

許可なしでモーターバイクを使用すると、使用者、他の道路使用者、歩行者などの負傷の原因となる可能性があり、モーターバイクに損傷を与えることになりかねません。

注記：

- **イグニッションスイッチを長時間Pの状態にしたままにしないでください。バッテリーが上がる原因となるからです。**

## ステアリングロックキー

**1. ステアリングロックキータグ**

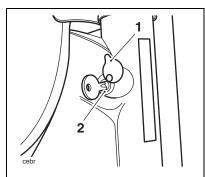
ステアリングロックキーはステアリングロックの操作だけに使用します。イグニッションスイッチを操作するのは別のキーです。

モーターバイクは出荷の際に、2つのステアリングロックキーとキー番号を記した小さなタグを一緒にお届けします。キーナンバーを書き留め、スペアキーとキーナンバータグをモーターバイクから離れた安全な場所に保管してください。

最寄りの正規Triumphディーラーは、キーナンバーのデータに基づいてカットした代替キーを供給したり、オリジナルをマスターキーに使って新しいキーをカットしたりできます。

**注意**

スペアキーをモーターバイクと一緒に保管しないでください。安全確保のあらゆる面でマイナスです。

## ステアリングロック

1. ステアリングロックカバー
2. ステアリングロック

このロックにはキーで作動する２つのポジションがあります。キーはロックを入れた状態、ロックを外した両状態で取り外すことができます。

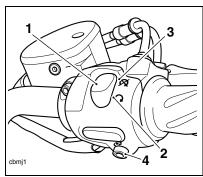
ロックするには、キーを差し込んで反時計回りに回しながら、ロック全体を内側に押し込んでください。同時に、ロックがかかるまでハンドルを左に回しきってください（この点で、ロックは回転し内側に動きます）。

ステアリングロックを外すには、キーを差し込み、ロックにかかった重さを軽減するためにハンドルを少し回して、ロックが外側に飛び出すまでキーを更に反時計回りに回してください。キーを抜き取ります。

**警告**

ステアリングロックは運転前に必ず外してください。ステアリングロックの入った状態で、ハンドルを回したり、モーターバイクを操縦することはできないからです。

モーターバイクをステアリング制御なしで運転すると、コントロールを失って事故を招くことがあります。

## 右ハンドルスイッチ

1. エンジンストップスイッチ
2. RUN ポジション
3. STOP ポジション
4. スターターボタン

### エンジンストップスイッチ

モーターバイクを運転するには、イグニションスイッチを ON にして、エンジンストップスイッチを RUN ポジションにする必要があります。

エンジンストップスイッチは非常時に使います。エンジンを停止しなければならないような非常事態が発生した場合、エンジンストップスイッチを STOP ポジションに回してください。

注記：

- エンジンストップスイッチは、エンジンを停止しますが、電装回路全てを遮断するわけではありません。普段は、エンジンンを止めるのにイグニッションスイッチを使ってください。

**注意**

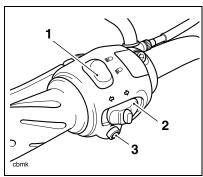
エンジンがかかっている時以外は、イグニッションスイッチを ON にしたままにしないでください。電装系統とバッテリーに損傷を与える恐れがあるからです。

### スターターボタン

スターターボタンは電動スターターを作動させます。スターターを作動させるには、クラッチレバーを握ってください。

注記：

- クラッチレバーを握っても、サイドスタンドが下りていてギアが入っていれば、スターターは作動しません。
- ライトスイッチは、Triumph のどのモデルにも付いていません。その代わり、ヘッドライトとテールライトはイグニッションスイッチが ON になった時、自動的にスイッチが入ります。

## 左ハンドルスイッチ

1. ヘッドライトディップスイッチ
2. 方向指示器スイッチ
3. ホーンボタン

### ヘッドライトディップスイッチ

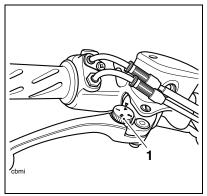
ヘッドライトディップスイッチを使ってハイビーム、ロービームの切り換えができます。ハイビームにする時は、スイッチを前方に押します。ロービームにする時は、スイッチを後方に押します。ハイビームになっていると、ハイビーム警告灯が点灯します。

### 方向指示器スイッチ

インジケータースイッチを（左）か（右）に押して放すと、該当する方向のインジケータが点滅します。インジケータを切るには、スイッチの真ん中のボタンを押してから放してください。

### ホーンボタン

イグニッションスイッチがONになっている状態で、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

## ブレーキとクラッチレバーアジャスタ

1. レバーアジャスタホイール

両方のモデルとも、フロントブレーキとクラッチレバーにアジャスターがあります。このアジャスタを使うと、ハンドルバーからレバーまでの間隔を、操縦者の手の大きさに合わせて4段階に変えることができます。

レバーを調整するには、レバーを前方に押してアジャスタホイールを回し、レバーピボット上の三角マークを番号のひとつに合わせます（上は4の位置に合わせたところ）。

ハンドグリップと、放した状態のレバーの間隔は、4番に合わせた時に最も短くなり、1番に合わせた時に最も長くなります。

**警告**

モーターバイクが走行中にレバーの調整を行なわないでください。コントロールが失われ、事故を招く恐れがあります。

レバーを調整した後は、交通のない場所でバイクを運転し、新しいレバー設定になじんでください。モーターバイクは他人に貸したりしないでください。あなたの手になじんだレバー設定を他人に変えられる恐れがあり、そのためにバイクのコントロールが失われて事故を引き起こす可能性があります。

## 燃料

### 燃料の等級

お買い上げのTriumphのエンジンは無鉛燃料を使うように設計されており、正しい等級の燃料を使った時に最高の性能を発揮します。常にオクタン価 91 RON 以上の無鉛燃料を使用してください。

**注意**

多くの国々で、これらのモデルの排気装置に、排気ガスの排出量低減に役立つ触媒作用用コンバーターが取り付けられています。モーターバイクが、燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態になると、この触媒作用用コンバーターに永久的な損傷を与える恐れがあります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

**注意**

国や州、地域によっては、有鉛ガソリンの使用は違法とされています。有鉛ガソリンを使うと、触媒作用用コンバーターに損傷を与えることがあります。

## 燃料補給

**⚠ 警告**

燃料の取り扱いと関連づけられる危険要素を低減するために、必ず以下の安全上の指示に従ってください：

ガソリン（燃料）は高可燃性で、一定の状況下では爆発する可能性があります。燃料補給の際はイグニッションスイッチをOFFにしてください。

禁煙厳守。

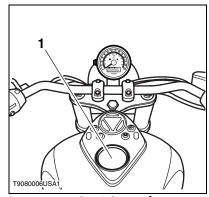
携帯電話は使用しないでください。

給油場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

絶対に燃料レベルがフィラーネックの中まで上がる程満タンにしないでください。太陽熱やその他の熱源からの放射熱で燃料が膨張してあふれ出し、火災を引き起こす恐れがあります。

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められているか点検してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

### フューエルタンクキャップ

1. フューエルタンクキャップ

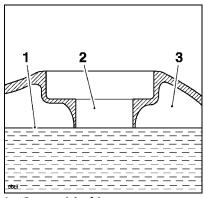
燃料タンクキャップを開けるには、キャップを反時計回りに回し、フィラーネックから取り外します。キャップを閉めるには、キャップをタンクフィラーネックに合わせ、フィラーネックが密閉されるまでキャップを時計回りに回します。完全に締めきった時点でラチェット装置が働き、キャップの外側の部分だけが内部とは無関係に空まわりしてキャップの締め過ぎを防ぎます。

### 燃料タンクへの給油

雨天時やほこりっぽい状態の時は、給油を避けてください。大気中の異物が燃料を汚染する恐れがあります。

**注意**

汚染した燃料は、燃料系統のコンポーネントに損傷を与えかねません。

燃料タンクへの給油は、流失を防ぐためにゆっくり行なってください。燃料レベルがフィラーネックの最下部に到達するまで給油しないでください。これは、エンジンからの放射熱や直射日光の熱でタンク内の燃料が膨張しても、膨張を許容できる空間が十分残っているようにするためです。

1. フューエルレベル
2. フィラーネック
3. 空隙

給油後は、必ず、フューエルフィラーキャップが適切に閉められ、ロックされているか点検してください。

**警告**

タンクをいっぱいにすると、燃料の流出を招く恐れがあります。

ガソリン（燃料）をこぼした場合は、すぐ完全に拭き取り、使った布は安全な方法で処分してください。

エンジン、排気管、タイヤ、その他モーターバイクのどの部分であろうと、ガソリン（燃料）をこぼさないよう注意してください。

ガソリン（燃料）は高可燃性のため、燃料漏れやこぼれがあったり、前述の安全上の注意が守られなかったりすると、所有物に損傷を与えたり、人身事故のもととなる火災を引き起こしかねません。

タイヤの近くあるいはタイヤの上にガソリン（燃料）をこぼすと、タイヤの路面グリップ力が落ちることがあります。これは、モーターバイクの制御性を低下させ、事故の原因となる危険な走行状態を生じさせることがあります。

## サイドカバー：右側のサイドカバー

通常、America および Speedmaster モデルの右側サイドカバーを取り外す必要はありませんが、正規 Triumph ディーラーでの実施が必須の点検や修繕作業は例外とします。

## シート

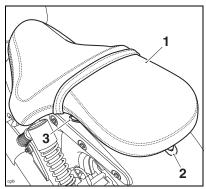
### シートケア

シートカバーを傷つけないように、シートを落としたり、シートやシートカバーを傷つけそうな面にシートを立てかけたりしないでください。

**注意**

シートやシートカバーを傷つけないようにするため、シートを落とさないでください。シートやシートカバーをモーターバイクに立てかけたり、傷つけそうな面に立てかけないでください。シートは、シートカバーを上向けにして、柔らかい布でカバーしたきれいで平らな面においてください。

シートカバーを傷つけたり、染みをつくったりする可能性のあるものをシートの上においてはなりません。

### シート

1. シート
2. 締め具
3. ロックリリース

取扱説明書を取り出せるように、シートを取り外すことができます。ヒューズボックスカバーの内側にあるアレンキーは、シートの締め具を取り外すためのものです。

ヒューズカバーを取り外してアレンキーを取り出すには、ヒューズカバーの下端を徐々に引っ張って、位置決めグロメットから外してください。グロメットから外れたら、今度は上端が位置決めスロットから外れるまで、下端を持ち上げていきます。

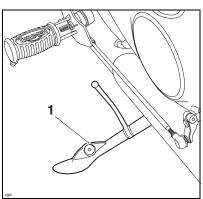
シートの後方から固定具を取り外します。

ロックリリースを外側に引っ張ってシートの中心部を外してから、シートの後方を持ち上げて前部の端を燃料タンクから外します。

再装着するには、位置決め凸縁がフュエルタンクブリッジの真下に正しく置かれていることを確認して、シートをフレームに位置づけます。シートを強く押し下げ、シートの中心部をシートロックにはめ込みます。

最後にシートファスナーを10 Nmで締め付け、アレンキーを専用のスペースに保管して、ヒューズカバーを再装着します。

## スタンド

### サイドスタンド

1. サイドスタンド

本モーターバイクにはサイドスタンドが装備されており、バイクを斜めにして駐車できます。サイドスタンドを使用した時は例外なく、ライディング前に、モーターバイクに乗ったらまずスタンドが完全に引き上げられていることを確認してください。

安全な駐車の仕方に関する解説は「モーターバイクの運転」の章を参照してください。

**警告**

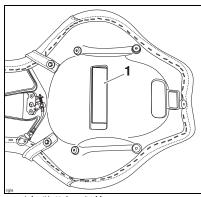
本モーターバイクには、サイドスタンドが降りた状態で走行するのを防ぐために、インターロックシステムが取り付けられています。

絶対に、サイドスタンドが降りた状態で走行したり、インターロック装置の機能を妨害したりしないでください。モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすといった、危険な走行状態を引き起こすことがあるからです。

**注記：**

- **サイドスタンドを使用する時は、必ずハンドルを左に回し切り、バイクをファーストギアに入れたままにしておいてください。**

## 取扱説明書

### 取扱説明書の保管

1. 取扱説明書の保管

本モーターバイクの取扱説明書は、シートの真下にあるポケットの中に保管されています。

取扱説明書を手にするには、シートを取り外して裏返します。取扱説明書は、シート真下のスペースから引っ張って取り出すことができます。

取扱説明書を元に戻すには、シート真下のスペースに入れ、「シートの再装着」（*32*ページを参照）に記載されている要領でシートを再装着します。

## 慣らし運転

「慣らし運転」とは、新車をスタートしてから最初の数時間起こなう運転をいいます。

特に、コンポーネントが新しい時は、エンジンの内部摩擦は大きくなります。その後エンジンを使い続けることにより、コンポーネントが「ベッドイン」され、この内部摩擦は著しく低減されます。

慣らし運転期間中は慎重にすることによって、排ガス量を低減させ、最高の性能発揮、燃料節約、エンジンその他、モーターバイクの構成部品の耐用年数延長を実現します。

最初の 800 km：

- フルスロットルにしないでください。
- 常にエンジン速度を高速に保つことは避けてください。
- 高速、低速にかかわらず、長時間一定のスピードで走行することは避けてください。
- 荒っぽい始動、急停止、急激な加速は、非常時以外は避けてください。
- 最高速度の４分の３を超えるスピードで走行しないでください。

800 から 1500 km まで：

- エンジン速度に関して、短時間ならレブリミットまで徐々に上げることができます。

慣らし運転期間中と期間終了後の両方：

- エンジンが冷えている時は回転速度を上げ過ぎないこと。
- エンジンに負担をかけないこと。必ず、エンジンが「苦闘」し始める前に低速ギヤに切り換えてください。
- 不必要にエンジン速度を上げて走行しないこと。ギアをチェンジアップすることは、燃料消費量や騒音の低減、環境保護に役立ちます。

## 安全運転

### 日常の安全点検

毎日、走行する前に以下の項目を点検してください。点検により運転が安全で確実なものになり、点検時間も最小限ですみます。

点検を実施中に異常が見つかった場合は、モーターバイクを安全な作動状態に戻すのに必要な処置を講ずるため、「整備と調整」の章を参照するか最寄りの正規 Triumph ディーラーに相談してください。

**警告**

毎日の走行前に以下の点検を怠ったり、モーターバイクを以下の故障のまま作動すると、モーターバイクに大きな損傷を与えたり、コントロールを失ったり、事故を招く恐れがあります。

点検：

**燃料：** タンクに十分あるか、燃料漏れはないか（*31* ページ）。

**エンジンオイル：** サイトグラス上のレベルは適切か。必要に応じて正しい仕様のオイルを補充（*57* ページ）。

**タイヤ / ホイール：** 空気圧は適正か（冷寒時）。トレッドの深さ / 磨耗（トレッドの深さ最低 2.0 mm）、タイヤ / ホイールの損傷、パンクなどを点検（*101* ページ）。

**ドライブチェーン:** ドライブチェーンの調整と潤滑注油が適正であるか(*66*ページ)。

**ナット、ボルト、固定部品:** ステアリングとサスペンションの構成部品、アクスル、すべての制御装置がきちんと締め付けられ、固定されているかを目視点検。ゆるんだり/傷んでいる固定具がないか、全体的に点検。

**ステアリングの動き:** スムーズに動き、ロックとロックの間に遊びがないか。コントロールケーブルにひっかかりがないか(*73*ページ)。

**ブレーキ:** ブレーキレバーを引き、ブレーキペダルを踏んで、ブレーキの利きが適切かを点検。ブレーキが利くまでのレバー/ペダルの遊びが大きすぎないか、ブレーキをかけている時にスポンジーな感触があるかを点検(*69*ページ)。

**ブレーキパッド:** すべてのパッドに1.5 mm以上のライニングがなければならない(*69*ページ)。

**ブレーキフルードレベル:** ブレーキフルードの漏れがないか。ブレーキフルードの液面は、両方のリザーバに付けられた「MAX」と「MIN」のマークの間にあるか(*71*ページ)。

**フロントフォーク:** 動きがスムーズか。フォークオイルの漏れがないか(*75* ページ)。

**スロットル:** スロットルグリップの遊びが2 – 3 mm あるか。スロットルグリップは引っかかりなしにアイドルポジションに戻るか(*61*ページ)。

**クラッチ:** スムーズに作動するか、ケーブルの遊びは適切か(*64*ページ)。

**電装品:** すべてのライトとホーンが適切に機能するか(*28*ページ)。

**エンジン停止:** ストップスイッチでエンジンが停止するか(*27*/*38*ページ)。

**スタンド:** バネの張力で完全に上の位置まで戻るか。リターンスプリングが弱くないか、傷んでいないか(*33*ページ)。

# モーターバイクの運転

## 目次

1. エンジンストップスイッチ
2. スターターボタン
3. ニュートラル表示灯
4. チョーク
5. イグニッションスイッチ

## エンジンの停止

- スロットルを完全に戻します。
- ニュートラルを選びます。
- イグニッションスイッチをオフにします。
- ローギヤに入れます。
- 固く平坦な地面にモーターバイクを置き、サイドスタンドで支えてください。
- イグニッションキーをイグニションスイッチから取り外します。
- ステアリングロックをかけます(*26*ページ参照)。

**注意**

エンジンは通常、イグニッションスイッチをOFFポジションにして停止させてください。エンジンストップスイッチは、非常時にのみ使います。エンジン停止の状態でイグニッションスイッチをオンにしたままにしないでください。電装系統に損傷を与えかねません。

## エンジンの始動

- ステアリングロックを外します。
- エンジンストップスイッチが RUN ポジションにあることを確認してください。
- イグニッションキーを差し込み、イグニッションスイッチをONの位置に回します。
- 確実にギアをニュートラルに入れてください。
- クラッチレバーを切ります。
- エンジンが冷えている時は、下記の事柄に注意して、チョークを引き出します。気温が 25℃ 以上の時は、チョークを一番目の位置まで引き出します。気温が 25℃ 以下の時は、チョークを完全に引き出します。
- エンジンがある程度暖かい時は、チョークを一番目の位置まで引き出します。
- スロットルを全閉にしたままで、エンジンがかかるまでスタータボタンを押し 続けてください。
- クラッチレバーをゆっくりと放します。
- ウォーミングアップの間は、エンジンが急転したりやエンストしないように、チョークをいちどきにほんの少しだけ徐々に押してください。
- エンジンが充分暖まりチョークなしで回転するようになったら、チョークを完全に押し込んでください。
- エンジンが熱い場合は、チョークが完全に押し込まれていることを確認してください。

**⚠ 警告**

絶対に、閉めきった場所でエンジンを始動したり回転させたりしないでください。排気ガスは有毒です。短時間の内に意識を失い、死に至る可能性があります。

モーターバイクは必ず、野外または換気の良いところで運転してください。

**⚠ 注意**

本Triumphモーターバイクはエアクーリングシステムを使っているため、エンジンの適切な作動温度を維持するには、シリンダとヘッドの上の空気の流通を良くする必要があります。交通渋滞の時や交通が止まっているような場所で、長時間のアイドリングや非常な低速走行は、エンジンをオーバーヒートさせ、重大な損傷につながる恐れがあります。

**⚠ 注意**

スタータを5秒以上続けて作動させないでください。 スタータモータがオーバーヒートしてバッテリのパワーが落ちます。スターターを繰り返し作動させる場合は、モーターが冷え、バッテリーのパワーが回復するまで 15 秒の間隔を置いてください。

**⚠ 注意**

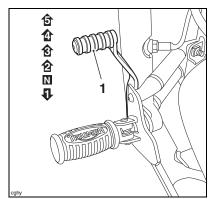
油圧低下警告灯はエンジンがスタートすると、すぐに消えるはずです。

エンジン始動後も油圧低下警告灯が消えない場合は、ただちにエンジンを止めて原因を調べてください。

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに多大な損傷を与えることがあります。

注記：

- 本モーターバイクにはスターターロックアウトスイッチが付いています。このスイッチは、サイドスタンドが下りていてギアがニュートラルに入っていない時に、電動スターターが作動するのを妨げます。
- エンジンが回転していてギアがニュートラルになっていない時にサイドスタンドを伸ばすと、エンジンはクラッチの位置に関係なく停止することがあります。

## 発車 / ギアチェンジ

1. ギアチェンジペダル

- クラッチレバーを切ってファーストギアを選びます。スロットルを少し開きクラッチレバーをゆっくり放します。クラッチがかみ合い始めたら、スロットルをもう少し開け、エンストを起こさない程度にエンジンのスピードを上げます。
- クラッチレバーを切りながらスロットルを戻します。ギアを切り換えて一段上げるか下げるかします。クラッチレバーをつなげながら、スロットルを半開きにします。ギアチェンジをする時は、必ずクラッチを使ってください。

**警告**

フロントホイールが浮き上がり（ウィリー）、リアタイヤにブレーキングトラクションがかかるので（空転）、ローギアでのスロットルの全開や急開は避けてください。

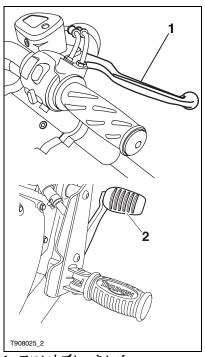
本モーターバイクに慣れていない場合は、スロットルを慎重に開いてください。「ウィリー走行」やトラクションの低減は、モーターバイクを制御不能にし、事故を引き起こすことがあるからです。

注記：

- **ギアチェンジの仕組みは「ポジティブストップ」タイプです。つまり、ギアチェンジペダルを１回動かす毎に、ギアは上か下の方向に１段ずつ切り換わる仕組みです。**

**警告**

高速走行中に低速ギアに切り換えないでください。エンジン回転数が過多になることがあります。これは後輪をロックしてバイクを制御不能に陥らせ、事故を招く可能性があります。エンジンも損傷を受けかねません。各ギアを低速のギアへ切り換える時は、エンジン速度を中程度にして行なってください。

## ブレーキ操作

1. フロントブレーキレバー
2. リアブレーキペダル

**警告**

**ブレーキをかける時は、以下の事を守ってください：**

モーターバイクの速度を落とすためにクラッチを噛み合わせたままで、スロットルを完全に閉じてください。

モーターバイクが完全に停止した時、ギアはファーストに入っているよう、ギアを一段ずつシフトダウンしてください。

停止する時は、必ず両方のブレーキを同時にかけてください。普通は、フロントブレーキはリアブレーキより少し強めにかける必要があります。

ギアを低速に切り換えるかクラッチを完全に切ってください。エンストを起こさないようにするためです。

ブレーキは絶対にロックさせないでください。モーターバイクを制御しきれなくなり、事故を引き起こしかねません。

**警告**

急ブレーキをかける時は、ギアのシフトダウンは無視し、横滑りすることなく前後のブレーキを可能な限り強くかけることに集中してください。ライダーは、車の通らない所で急ブレーキのかけ方を練習しなくてはなりません。

Triumph は、ライダー全員に教習を受けることをお勧めします。教習では安全なブレーキ操作についてのアドバイスが受けられます。間違ったブレーキテクニックは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

**警告**

安全を確保するため、ブレーキ操作、加速、コーナリングには充分注意を払ってください。不注意な行為はコントロールを失わせ、事故のもととなる可能性があります。フロント又はリアブレーキの一方だけを使った場合、全体的なブレーキ性能は低下します。過度にブレーキをかけると前後いずれかの車輪をロックさせる恐れがあり、バイクの制御性が低下して事故のもととなりかねません。

できれば、コーナーに入る前に速度を落とすかブレーキをかけてください。コーナリング半ばでスロットルを閉めたりブレーキをかけると、車輪がスリップする恐れがあり、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

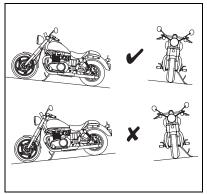
濡れた路面、雨天時、ゆるんだ路面を走行している時は、操縦および停止能力が低下することがあります。このような状況下では、動作はことごとくなめらかでなくてはなりません。急激な加速、ブレーキ、コーナリングは、コントロールを失わせ、事故のもととなりかねません。

**⚠ 警告**

長く急な坂道を下る時は、ギアを低速に切り換えてエンジンブレーキを使い、断続的に両方のブレーキをかけてください。ブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキを過熱させ、効力を低減させる可能性があります。

ブレーキペダルに足をかけたまま、又はブレーキレバーに手をかけたまま走行すると、ブレーキライトが点灯し、他のドライバーの誤解を招く恐れがあります。又、ブレーキを過熱させ、ブレーキ作用の有効性を低下させる恐れがあります。

エンジンのスイッチを切ったまま惰走したり、モーターバイクを牽引したりしないでください。トランスミッションは、エンジンが回転中だけ圧力給油されます。潤滑が不十分であれば、トランスミッションの損傷や焼付きの原因となり、急激にモーターバイクのコントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

## 駐車

ニュートラルにしたら、OFF ポジションにイグニッションスイッチを回してください。

盗難防止のために、ステアリングをロックします。

モーターバイクの転倒を防ぐために、必ず、固く平坦な場所に駐車してください。

斜面に駐車する時にスタンドが外れ、バイクが前に動いて倒れないように、必ず上がり坂に向けて駐車してください。

側面が傾斜している場所では必ず、傾斜がモーターバイクを自然にサイドスタンドの方に押しつけるように駐車してください。

横に6°以上傾いている斜面には駐車しないこと。又、坂下に向けての駐車は、絶対に避けてください。

注記：

- 夜間に道路近くに駐車したり、法律で駐車灯の点灯を義務づけられている場所に駐車したりする場合は、イグニッションスイッチを P（PARK）にして、テールライト、ライセンスプレートライト、ポジションライトを点灯したままにしてください。
- スイッチをPポジションに合わせたままで長時間放置しないでください。バッテリーが上がるからです。

**警告**

柔らかい地面や、急斜面には駐車しないでください。そうした場所で駐車すると、モーターバイクが倒れて損傷したりケガをしたりします。

**警告**

ガソリンは高可燃性で、一定の状況下では爆発する恐れがあります。車庫その他の屋内に駐車する時は、換気が良く、モーターバイクの近くに火炎や火花の発生源がないことを確認してください。これにはパイロットランプのついた器具も含まれます。

上記アドバイスに従わなかった場合、火災が発生して損傷したりケガをしたりする恐れがあります。

**警告**

走行後、エンジンと排気装置は高温になっています。通行人や子どもたちがモータバイクに触れることができるような場所に駐車しないでください。

熱いうちにエンジンや排気装置に触ると火傷する恐れがあります。

## 高速走行の際の注意

**⚠ 警告**

本 Triumph モーターバイクは、走行中の道路の法定制限速度内で運転しなくてはなりません。高速でモーターバイクを運転すると、スピードが増すにつれて周囲の交通状況に対応できる時間が激減するため、危険な状況に陥る可能性があります。天候や交通状態を考慮し、状況次第で必ず減速してください。

**⚠ 警告**

本 Triumph モーターバイクの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、あるいはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

**⚠ 警告**

高速走行時のモーターバイクの操縦特性は、法定制限速度で走行している時の慣れ親しんだ特性とは違う可能性があります。十分なトレーニングを受けて必要な技術を修得するまでは、高速走行を試みないでください。誤った操縦の結果、重大な事故に終わることになりかねないからです。

**⚠ 警告**

以下に列挙された事柄は極めて重要なので、絶対に軽視してはなりません。普通の速度で走行中は気づきもしないような問題が、高速走行時には大問題になりかねません。

### 一般事項

モーターバイクが定期整備表に従って整備されてきていることを確認してください。

### ステアリング

ハンドルは、遊びが大き過ぎず、きつ過ぎる部分もなく、スムーズに回転するか調べてください。コントロールケーブルがステアリングの邪魔にならないことを確認してください。

### 荷物

確実に、すべての荷物用コンテナを閉じてロックし、モーターバイクにしっかり固定してください。

### ブレーキ

フロントとリアブレーキが適切に機能しているか調べてください。

### タイヤ

高速走行ではタイヤに負担がかかります。安全走行には良質のタイヤが絶対必要です。タイヤの全体的な状態を調べ、適正空気圧になるまで空気を入れて(タイヤが冷えた状態で)、ホイールバランスを点検してください。タイヤ空気圧を点検した後、バルブキャップをしっかりとはめます。タイヤの点検とタイヤの安全性確保に関しては、整備の章と仕様の章の指示に従ってください。

### 燃料

高速走行中は燃費が高くなります。燃料は十分補給してください。

**注意**

排気装置には、排ガスレベルを低減するのに役立つ触媒コンバーターが取り付けられています。燃料切れまたは燃料レベルが著しく低下した状態でモーターバイクを走行させると、触媒コンバーターに永久的な損傷を与える可能性があります。ツーリングに十分な量の燃料を入れるようにしてください。

### エンジンオイル

オイルレベルを適正にします。補充の際は、正しい等級とタイプのオイルが使われていることを確認してください。

### 電装品

ヘッドライト、テールランプ、ブレーキライト、インジケータライト、ホーン等、全てが正しく機能することを確認します。

### その他

全ての固定具が締め付けられ、安全に関連のある部品は全て良好な状態にあることを確認します。

# アクセサリーと積載条件

アクセサリーを付け加えたり積載重量を増したりすると、モーターバイクのハンドリング特性に影響を与え、安定性に変化を生じさせて、減速せざるを得なくなることがあります。以下は、モーターバイクにアクセサリーを付け加えたり、同乗者や荷物を乗せて運転する場合に生じ得る危険について述べたものです。ガイドラインとして参考にしてください。

**警告**

積載の仕方が不適当な場合、事故につながる危険な走行状態を引き起こしかねません。

積載する荷物は、必ずモーターバイクの両側に等しく重量がかかるように振り分けてください。モーターバイクが走行中に荷物が動かないように、適切に固定された状態であることを確認してください。

荷物が安全な状態であるか、たえずチェックしてください(バイクの走行中は不可)。また、必ず、荷物がモーターバイクの最後部からはみ出すことのないようにしてください。

最大車両積載重量の 200 kg を絶対に超えないようにしてください。

この最大積載重量は、ライダー、同乗者、積載荷物の重量の合計から成っています。

**警告**

バイクの制御性を損なうようなアクセサリーを取り付けたり、荷物を積んだりしないでください。可視度、照明具の作動、変更されたロードクリアランスやバンキング能力（傾斜角度など）、制御機能、ホイールトラベル、フロントフォークの機構部分、モーターバイクの操作にかかわるその他の面に悪影響を与えていないことを確認してください。

**警告**

アクセサリーを装備したバイク、または、何であろうとペイロードを運搬しているモーターバイクは、絶対に130 km/h以上のスピードで運転しないでください。上記のいずれか / 両方が該当する状態の時は、たとえ法定最高速度の範囲内であっても、130 km/h を超える速度での運転を試みてはなりません。

アクセサリーおよび/またはペイロードがあると、モーターバイクの安定性と操縦性に変化が生じることがあります。

モーターバイクの安定性に生じる変化を考慮に入れなかった場合、バイクのコントロールが妨げられて、事故につながる恐れがあります。

許可されていないアクセサリーの取り付け、不適切な荷物の積み方、磨耗したタイヤ、モーターバイク全体のコンディション、悪路や悪天候などの状況次第で、絶対制限速度は 130 km/h より低減することを忘れないでください。

**警告**

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

**警告**

本Triumphモーターバイクでの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、またはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。

高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

**警告**

同乗者が乗っていると、モーターバイクの操縦性能やブレーキ性能に影響を与えることがあります。ライダーは、同乗者を乗せて運転する時に生じるこうした変化に備えておかなければなりません。二人乗りのトレーニングを受け、それがもたらす操作特性の変化をよく知って落ち着いて対応できるようにならない限り、二人乗り走行を試みてはなりません。

同乗者の存在を考慮に入れないでモーターバイクを運転した場合、バイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

**警告**

同乗者に対して、急に身体を動かしたり変な座り方をすると、モータバイクのバランスを崩す可能性があると伝えてください。

ライダーは同乗者に以下のように伝えてください。

- 同乗者は、モータバイクが走行中はじっと動かずに乗車していて、運転の邪魔をしないことが大切です。
- パッセンジャーフットレストに足を乗せ、シートストラップかライダーの腰をしっかり掴んでください。
- コーナーを回るときにライダーが身体を傾けたら同乗者も一緒に身体を傾け、それ以外は傾けないようにアドバイスしてください。

**警告**

バイクに動物を載せて運ばないでください。

動物が急に動き出してモータバイクのバランスを崩し、事故につながる恐れがあります。

**警告**

装備されているフットレストに足が届かないほど背の低い人を、バイクに同乗させないでください。

フットレストに足が届かないほど背の低い同乗者は、バイクにしっかりと腰掛けられず、不安定な走行状態を引き起こしかねません。その結果、制御性が損なわれて事故に至る恐れがあります。

**警告**

絶対にフレームとステアリング装置の間に物を保管しようとしないでください。これはステアリングのじゃまになる可能性があり、制御性を損なって事故につながることがあります。

ハンドルあるいはフロントフォークに重さが加わると、ステアリングアセンブリーのかさが増すため、ステアリングの制御性が損なわれて事故を引き起こす結果になりかねません。

**警告**

タンデムシートに小さな荷物を載せて運ぶ場合、荷物の総重量が 5 kg を超えてはならず、バイクの制御性を損なうようなものであってはなりません。また、車体の後部や脇からはみ出さない程度の大きさで、しっかりと固定されていなくてはなりません。

不安定で制御性を損なうような、あるいは車体の後部や側面からはみ出している、重量が 5 kg を超える荷物を運搬すると、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

たとえ小さな物が適切にリアシートに積載されているだけであっても、モーターバイクの最高速度は 130 km/h まで落とす必要があります。

# 整備と調整

## 目次

## 定期整備

モーターバイクを安全で信頼できる状態に維持するために、本章で要点を述べる整備と調整を必ず行なってください。定期整備表に沿って、日常の安全点検の章で指定されていることを実施してください。以下は、日常の点検および簡単な整備と調整を実施する際に従う手順を解説したものです。

**警告**

定期整備表の整備項目を正しく実施するため、特別な工具、知識、トレーニングが必要です。そのような知識と設備を備えているのは、正規 Triumph ディーラーだけです。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

# 整備と調整

| 整備内容 | オドメーター上のキロ数または経過期間の<br>いずれか先に達した方 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 初回整備 | 整備 A | 整備 B | 整備 C | 整備 D |
| | 毎 | 800<br>1ヶ月 | 10,000<br>1 年 | 20,000<br>2 年 | 30,000<br>3 年 | 40,000<br>4 年 |
| エンジンとオイルクーラー ー 漏れ点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| エンジンオイルー交換 | - | • | • | • | • | • |
| エンジンオイルフィルターー交換 | - | • | • | • | • | • |
| バルブクリアランスー点検 / 調整 | - | | | • | | • |
| エアクリーナーエレメントー交換 | - | | | • | | • |
| スパークプラグー点検 | - | | • | | • | |
| スパークプラグー交換 | - | | | • | | • |
| オートスキャン - Triumph 診断ツールでフルオートスキャンを行います | - | • | | • | | • |
| エンジン ECM ー保存されている DTC をチェック | | | • | | • | |
| 燃料フィルター交換 | - | | | • | | • |
| 燃料系統ー漏れ、擦り切れ、その他を点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| スロットルケーブルー点検 / 調整 | 日 | • | • | • | • | • |
| ライト、計器類＆電装系統ー点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| ステアリングー作動状態点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| ヘッドストックベアリングー点検 / 調整 | - | • | • | • | • | • |
| ヘッドストックベアリングー潤滑 | - | | | • | | • |
| フォークー漏れ / 作動状態点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| フォークオイルー交換 | - | | | | | • |
| ブレーキフルードレベルー点検 | 日 | • | • | • | • | • |

| 整備内容 | オドメーター上のキロ数または経過期間の<br>いずれか先に達した方 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 初回整備 | 整備 A | 整備 B | 整備 C | 整備 D |
| | 毎 | 800<br>1ヶ月 | 10,000<br>1 年 | 20,000<br>2 年 | 30,000<br>3 年 | 40,000<br>4 年 |
| ブレーキキャリパーーフルード漏れとピストンの焼き付き点検 | - | • | • | • | • | • |
| ブレーキマスターシリンダーーフルード漏れ点検 | - | • | • | • | • | • |
| ブレーキフルードー交換 | 2 年ごと | | | | | |
| ブレーキライトー作動状態点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| ブレーキパッドー摩耗状態点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| ドライブチェーンー潤滑注油 | 300 キロごと | | | | | |
| ドライブチェーンー摩耗点検 | 800 キロごと | | | | | |
| ドライブチェーンのゆるみー点検 / 調整 | 日 | • | • | • | • | • |
| 締め具類ー締まり具合を目視点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| ホイールー損傷がないか点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| ホイールベアリング - 摩耗 / 作動状態の点検 | - | • | • | • | • | • |
| タイヤの摩耗 / 損傷ー点検 | 日 | • | • | • | • | • |
| タイヤ空気圧ー点検 / 調整 | 日 | • | • | • | • | • |
| クラッチケーブルー点検 / 調整 | 日 | • | • | • | • | • |
| 燃料および蒸発*ホースー交換 | - | | | | | • |
| セカンダリーエアインジェクションシステムー点検および清掃 | - | | | • | | • |

* California モデルの蒸発系統ホースのみ

**⚠ 警告**

整備はどれも極めて大切ですから、怠ってはなりません。整備や調整の不備により、モーターバイクの部品が誤作動を起こすことがあります。誤作動を起こしたモーターバイクは危険であり、事故を引き起こす危険があります。

天候、地形、地理的条件によって整備内容は異なります。モーターバイクが使用される環境の特殊性や個々のオーナーの必要性に合わせて、整備スケジュールを調整してください。

不適切な整備や整備上の怠慢は危険な走行状態につながる可能性があります。本モーターバイクの定期整備は、必ず正規Triumphディーラーで実施してください。

Triumph Motorcycles 社は、オーナーによって実施された整備や調整の不備に起因する損傷、負傷については、一切責任を負いませんのでご了承ください。

## 定期整備の記録



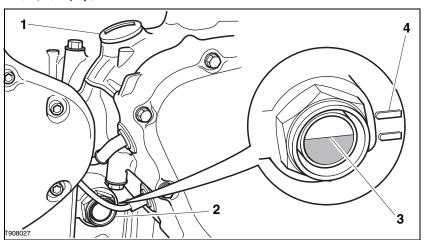
サービスハンドブックへの記入

定期サービスを受けるために正規Triumphディーラーを訪れた時は、必ず、ディーラーの受付係にお客様のサービスハンドブックを呈示してください。

このサービスハンドブックは、モーターバイクの保証条件の下で必要とされる定期整備が実施されたことを記録するものです。

整備を受けたモーターバイクを受け取る際は、必ず、サービスハンドブックにスタンプが押してあり、日付と現在のオドメーターの数字が記録してあることを確認してください。

これらの情報は保証請求の際に必要であり、又、本モーターバイクの将来の所有者にとっては、モーターバイクの価値を高めるものとなるでしょう。

## エンジンオイル

1. フィラー
2. サイトガラス
3. オイルレベル（正しいレベルを示しています）
4. クランクケースのオイルレベルライン

エンジン、トランスミッション、クラッチが正常に機能するように、エンジンオイルを適切なレベルに保ち、定期整備表に従ってオイルとオイルフィルターを交換してください。

**警告**

エンジンオイルが不足、劣化、あるいは汚染した状態でモーターバイクを運転すると、エンジンの摩耗を早め、エンジンやトランスミッションの焼付きに帰する恐れがあります。エンジンやトランスミッションの焼付きは、バイクを制御不能に陥らせ事故を招く恐れがあります。

## オイルレベルの点検

- エンジンを始動し、約 5 分間空転させます。
- エンジンを止めてから、オイルが落ち着くまで最低 3 分は待ってください。
- サイトグラス越しに見えるオイルレベルに注意してください。
- 適正レベルの時は、サイトグラス越しに見える液面が、クランクケースについている 2 本の平行線の間にあるはずです。

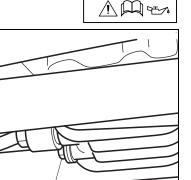
注記：

- **サイドスタンドで駐車している時ではなく、バイクを水平、垂直に立てた時に示されるのが実際のレベルです。**
- オイルを補充する必要がある場合は、フィラープラグを外し、サイトグラス内の液面が適正レベルになるまで、少しずつオイルを足してください。

**警告**

エンジンを切った直後は、エギゾーストシステムの温度が高くなっています。排気装置そのもの、またはその付近を扱う場合は、作業を始める前に十分時間をかけて排気装置を冷ましてください。どの部分であろうと高温の排気装置に触れると火傷をする恐れがあります。

- 適正レベルになったら、フィラープラグを取り付けてしっかり締めます。

## オイルとオイルフィルターの交換

1. オイルドレンプラグ

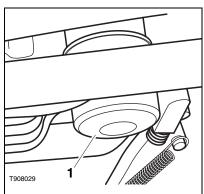
**警告**

エンジンオイルに長く触れたり繰り返し触れたりすると、皮膚の乾燥、かゆみ、皮膚炎を起こすおそれがあります。又、使用済みエンジンオイルには有害となり得る、発ガン性の汚染物質が含まれています。適当な防護服を着用し、皮膚に触れないようにしてください。

エンジンオイルとフィルターは、定期整備表に従って交換しなければなりません。

- エンジンを完全に暖機してから、停止させます。
- エンジンの下にオイルパンを置きます。
- エンジンドレンプラグを取り外します。

**警告**

オイルは触れるには熱過ぎるかもしれません。適切な防護服、手袋、防護メガネなどを着用し、高温のオイルに触れないようにしてください。過熱したオイルに触れると火傷する恐れがあります。

1. オイルフィルター

- Triumph サービスツール T3880313 を使い、オイルフィルターをねじって外します。使用済みフィルターを環境にやさしい方法で処分してください。
- 事前に、交換用オイルフィルターに新しいエンジンンオイルを入れておきます。
- 新しいオイルフィルターのシーリングリングにきれいなエンジンオイルを塗ります。オイルフィルターを取り付けて 10 Nm で締め付けます。
- オイルが完全に排出された後、新しいシーリングワッシャーをドレンプラグにはめます。プラグを取り付けて25 Nmまで締め付けます。

**警告**

エンジンを切った直後は、エギゾーストシステムの温度が高くなっています。排気装置そのもの、またはその付近を扱う場合は、作業を始める前に十分時間をかけて排気装置を冷ましてください。どの部分であろうと高温の排気装置に触れると火傷をする恐れがあります。

- オイルドレンプラグを取り外します。仕様の章に記載されている種類と等級のオイルを、液面がサイトグラス越しに見え始めるまで、エンジンに入れます。仕様の章に記載されている容量を超えるほど、オイルを入れないでください。
- エンジンをかけ、最低 30 秒間アイドルさせます。

**注意**

オイルがエンジン各部にゆきわたる前に、アイドル以上にエンジンの回転を上げると、エンジンの損傷や焼付きのもととなる可能性があります。オイルが完全にゆきわたるよう 30 秒間エンジンを回転させた後でない限り、エンジン速度を上げないでください。

- エンジンが始動すると間もなく、油圧警告灯が消えることを確実にします。

> ⚠ **注意**
>
> エンジンオイルの油圧が低すぎると、油圧低下警告灯が点灯します。エンジンが回転中なのに油圧警告灯が消えない場合は、即座にエンジンを止めて原因を調べてください。油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンに損傷を与えることがあります。

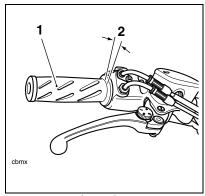
- エンジンを停止し、オイルレベルを再点検します。必要があれば調整します。

### 使用済みエンジンオイルとオイルフィルターの処分

環境保護のため、オイルを地面、下水、排水口、水路等に流さないでください。使用済みオイルフィルターを普通のごみと一緒に置かないでください。処分の仕方がわからない時は、最寄りの地方自治体にお問い合わせください。

### オイルの仕様と等級

> ⚠ **注意**
>
> Triumph の高性能エンジンは、オイルタンクの上限マークに達するまで、API SH またはあるいはそれ以上の（例えば SJ、SK 又は SL）及び JASO MA 仕様に準拠する 10W/40 又は 15W/50 の半合成又は完全合成のエンジンオイルを使うように設計されています。
>
> エンジンオイルに化学添加剤を加えないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑するようになっており、添加剤はクラッチがスリップする原因となる場合があります。
>
> 鉱油、植物油、非洗浄性オイル、ひまし油など、求められている仕様に適合しないオイルは使わないでください。そのようなオイルを使うと、エンジンに瞬時に多大な損傷を与えかねません。
>
> エンジンオイルの交換又は補給中に、クランクケースに異物が混入しないよう注意してください。

## スロットルグリップ

1. スロットルグリップ
2. 2 - 3 mm

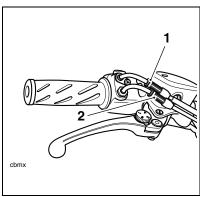
**警告**

スロットルグリップは、スロットルボディー内のスロットルバルブを制御します。スロットルケーブルが正しく調整されていない場合は、きつ過ぎてもゆるすぎてもスロットルを制御するのが難しくなり、性能に悪影響を与えることがあります。

定期整備表に従ってスロットルグリップの遊びを点検し、必要に応じて調整を行なってください。

常にスロットルの「感触」の変化に敏感でいてください。少しでも変化に気づいた時は、正規 Triumph ディーラーにスロットルシステムを点検してもらってください。メカニズムの磨耗が原因で生じた変化は、スロットルの膠着につながる可能性があります。

不適当に調整された、引っかかったり動かなかったりするスロットルにより、バイクが制御不能に陥って事故を招くことがあります。

## 点検

1.「オープニング」ケーブルアジャスターツイストグリップ側
2.「クロージング」ケーブル

- スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。問題が見つかったり、不審な点のある場合は、正規 Triumph ディーラーに、スロットルシステムを点検してもらってください。
- スロットルグリップを前後に軽く回した時に、スロットルグリップに2 - 3 mmの遊びがあるかを調べてください。
- 遊びの大きさが不適当な場合、Triumph 社は、調整を最寄りの正規 Triumph ディーラーにしてもらうことをお勧めします。ただし、非常時の場合は以下の手順でスロットルを調整できます:

## 調整

**警告**

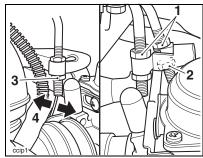
調整や配線の不備で、膠着状態になった、あるいは損傷を受けたスロットルケーブルを付けたままモーターバイクを運転すると、スロットルの機能が妨げられ、バイクを制御しきれなくなって事故に帰する場合があります。

不適切な調整や配線を避け、動きのスムーズでない、あるいは損傷のあるスロットルを継続的に使用することのないように、必ず、最寄りの正規 Triumph ディーラーにスロットルを点検、調整してもらってください。

注記：

- **微調整は、スロットルのツイストグリップ側のアジャスターを使って行なうことができます。この方法で正しい設定ができなかった場合は、スロットルボディー側にあるアジャスターを使う必要があります。設定は、最初に「オープニング」ケーブル、次に「クロージング」ケーブルの順で行なわなくてはなりません。**

- シートを取り外します。
- 最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。
- ツイストグリップ側の「オープニング」ケーブルアジャスターを、それぞれの方向に等量の調整がなされるように設定します。

・ ケーブルのスロットルボディー側にある「オープニング」ケーブルアジャスターを、ツイストグリップのところに2 – 3 mmの遊びをもたせるよう設定します。ロックナットを締め付けます。

1. ロックナット
2. オープニングケーブルアジャスター
3. クロージングケーブルアジャスター
4. クロージングケーブルー遊び測定ポイント

・ ケーブルのツイストグリップ側に近いアジャスターを使い、2 - 3 mmの遊びをもたせるのに必要な微調整を行なってください。ロックナットを締め付けます。

・ スロットルを完全に閉じた状態で、「クロージング」ケーブルに2 - 3 mmの遊びがあることを確実にします。必要ならば「オープニング」ケーブルと同様に調整します。ロックナットを締め付けます。

**警告**

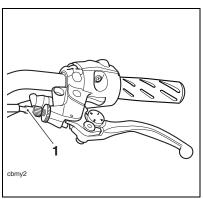
両方のケーブルのアジャスターロックナットを確実に締め付けます。ロックナットがゆるんでいると、スロットルが膠着状態になる可能性があるからです。スロットルの調整が不適切で、ひっかかったり膠着状態になると、バイクの制御性が損なわれて事故を起こす場合があります。

・ プラス（赤）のリード線から先に、バッテリーに再接続します。

・ シートを再装着します。

・ スロットルは、過度に力を入れなくてもスムーズに開くか、ひっかからずに絞れるかを調べてください。

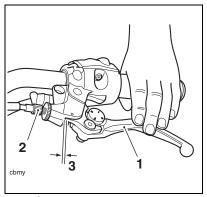
・ 走行を再開する前に、最寄りの正規 Triumph ディーラーまで慎重にバイクを走らせ、そこでスロットルシステムを徹底的に調べてもらってください。

## クラッチ

1. クラッチケーブル

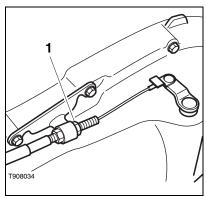
本モーターバイクにはケーブルで操作するクラッチが装備されています。

クラッチレバーの遊びが大きすぎると、クラッチが完全に外れないでエンストを起こしたり、ギアチェンジが困難になる場合があります。逆にクラッチレバーの遊びが十分でなければ、クラッチがスリップして完全にかみ合わなくなる恐れがあります。

定期整備表に従って、必ずクラッチレバーの遊びを点検してください。

### 点検

1. レバー
2. アジャスター（レバー側）
3. 2 – 3 mm

- 上図の矢印のついているクラッチレバーの部分に2 – 3 mmの遊びがあるかどうか点検してください。
- 遊びの大きさが不適当な場合は、調整する必要があります。

## 調整

1. アジャスター（エンジン側）

- クラッチケーブルのレバー側のきざみ付きロックナットを緩め、クラッチレバーの遊びの大きさが適正になるまでアジャスタースリーブを回します。
- きざみ付きロックナットをクラッチレバーアセンブリーにはめて締めます。
- レバーアジャスターを使って適当な調整ができなかった場合は、ケーブルのエンジン側にあるアジャスターを使用してください。
- アジャスターロックナットを緩めます。
- クラッチレバーのところに2 - 3 mmの遊びができるよう外側のケーブルアジャスターを回します。
- ロックナットを締め付けます。
- 必要に応じてレバーアジャスターを使い、微調整を行なってください。
- ケーブルの両端にあるロックナットがすべて締まっていることを確認してください。

## ドライブチェーン

ドライブチェーンは、安全走行のためと過度の磨耗防止のために、定期整備表の求めるところに従って定期的に点検、調整、潤滑注油しなければなりません。ほこりっぽい、ぬれている、塩分が多い、砂が多いなど極端な状況のもとでは、点検、調整、潤滑注油は、より頻繁行なわなくてはなりません。

ひどく磨耗していたり、(きつ過ぎ、ゆる過ぎのいずれでも)調整が適切でないチェーンは、スプロケットから外れたり、壊れたりする恐れがあります。

**警告**

ゆるい、磨耗している、壊れている、スプロケットから飛び出す、このようなチェーンは、エンジンスプロケットに絡まったり後輪をロックする場合があります。

エンジンスプロケットに絡まったチェーンは、ライダーを負傷させることがあり、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

同様に、後輪が動かなくなると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を招くことがあります。

### チェーンの注油

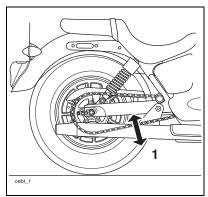
チェーンは 300 キロ走行する毎に、あるいは雨天時や濡れた路上での走行後は、潤滑注油が必要です。また、チェーンが乾いている時も常に注油してください。

仕様の章で推奨されている、特別のチェーン潤滑剤を使用してください。

- ローラーの両側に潤滑油を差します。それにより、チェーンローラーと軸受けにオイルがゆきわたります。チェーンの「X」リングにも注油してください。余分なオイルは拭き取ります。
- チェーンの汚れが特にひどい時は、最初にパラフィンで汚れを落としてから、上記の要領で注油します。

**注意**

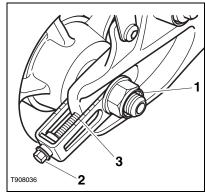
パワー「ジェット」洗車設備でチェーンを洗わないでください。チェーンの構成部品に損傷を与える恐れがあるからです。

## チェーンのたるみ

1. 最大ムーブメントポジション

**点検**

- 平らな場所にモーターバイクを置き、積載せずに真っ直ぐ立てます。
- モーターバイクを押してリアホイールを回転させ、チェーンが最もきつくなるポイントを見つけ、2 枚のスプロケットの中間でたるみを測定します。
- ドライブチェーンのたるみは、35 – 45 mmの範囲でなければなりません。

**調整**

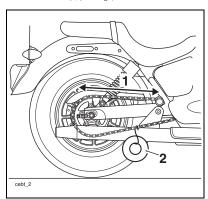
- チェーンのたるみの測定値が適正でない場合は、調整は以下の要領で行なわなくてはなりません：
- ホイールスピンドルナットを緩めます。
- 両方のアジャスターを等分に動かします。チェーンのたるみを大きくするには、アジャスターボルトを時計回りに、小さくするには反時計回りに回します。

1. リアホイールスピンドルナット
2. アジャスター
3. ホイールアラインメントマーク

- チェーンのたるみが正しく設定されたら、リアホイールスピンドルナットを 110 Nm で締めつけます。
- アジャスターを反時計回りに 2 Nm で締め付けます。
- ホイールアラインメントマークがモーターバイクの両側の同じ位置にくることを確実にしてください。適切でない時は必要に応じて調整します。
- リアホイールを回し、チェーンの調整具合を再点検します。必要な場合は再調整します。

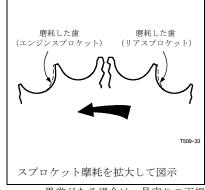
**警告**

ホイールスピンドルが緩んでいる状態でモーターバイクを運転すると、バイクの安定性と操縦性を損なう結果になる恐れがあります。安定性と操縦性が損なわれると、制御しきれなくなって事故につながる恐れがあります。

- リアブレーキの効き具合を調べてください。

## チェーンの磨耗点検

1. 20 環分を測定
2. おもり

- チェーンガードを取り外します。
- チェーンに10 - 20 kgのおもりを吊り下げて、チェーンを張ります。
- 1 番目のピンの中心から 21 番目のピンの中心まで、20 環分のチェーンの直線部分の長さを測ってください。チェーンは不均等に磨耗していることがあるため、数カ所測定してください。
- 長さが使用限度である321 mmを超えていた場合、チェーンは交換しなければなりません。
- リアホイールを回転させ、ドライブチェーンのローラーに損傷がないか、ピンや環が緩んでいないか点検してください。
- スプロケットカバーも取り外し、スプロケットの歯が不均等にまたは過度に磨耗していないか、傷んでいないか点検してください。

スプロケット摩耗を拡大して図示

- 異常がある場合は、最寄りの正規Triumph ディーラーにドライブチェーンとスプロケットを交換してもらってください。
- チェーンガードとスプロケットカバーを再装備します。

**⚠ 警告**

認定されていないチェーンを使用すると、チェーンの破損やスプロケットから飛び出す原因となる場合があります。どちらの場合でも、リアホイールを動かなくし、モーターバイクに多大な損傷を与え、制御しきれなくなって事故を引き起こす可能性があります。

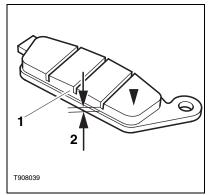
安全走行のために、Triumph パーツカタログの中で指定されている純正Triumph供給チェーンを使ってください。

チェーンのメンテナンスは絶対に怠らないでください。取り付けは正規Triumphディーラーに実施してもらってください。

**⚠ 注意**

スプロケットの磨耗に気づいた時は必ず、スプロケットとドライブチェーンを一緒に交換してください。

チェーンも一緒に交換しないで、磨耗したスプロケットだけを交換すると、新しいスプロケットの耐久性を損なうことがあります。

## ブレーキ

1. ライニングの厚さ
2. 1.5 mm溝の厚さ

### ブレーキパッドの磨耗点検

ブレーキパッドは、定期整備表に従って点検し、修理の限界まであるいは最低限度を超える薄さまで磨耗している時は、交換しなければなりません。

フロント又はリアブレーキのいずれかのパッドのライニング厚さが 1.5 mm 以下になっていたら、つまり、パッドが溝の底まで磨耗していたら、そのホイールのパッドを全部交換してください。

### 新しいブレーキパッドとディスクでブレーキング

交換用ブレーキディスクとブレーキパッドをモーターバイクに取り付けた後、動作の最適化とディスクとパッドの長寿命のため、一定期間にわたって使い慣らしを行うことを奨励します。新ブレーキパッドとディスクで奨励する、慣らし距離は300 kmです。

新ブレーキディスクとパッドを取り付けたら、慣らし運転中は急ブレーキを避け、慎重に運転し、車間距離を空けてください。

**警告**

ブレーキパッドは必ずホイール単位で交換しなければなりません。フロントの場合は、同じホイール上にキャリパーが２つ付いているので、両方のキャリパーのブレーキパッド全部を交換してください。

個別にパッドを交換すると、制動効率が低下することがあり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こす恐れがあります。

交換用パッドを取り付けた直後は、新しいパッドが「なじむ」まで極めて慎重に運転してください。

### ブレーキパッドの磨耗補整

ディスクとディスクパッドの磨耗は自動的に補整され、ブレーキレバーやペダルの働きに影響を及ぼすことはありません。フロントとリアブレーキに調整を必要とする部品はありません。

**警告**

ブレーキレバーないしペダルを操作したときに軽すぎる、またはレバーやペダルのストロークが大きすぎると感じたら、ブレーキラインに空気が入っているか、ブレーキが故障している可能性があります。

このような状態でモーターバイクを運転するのは危険です。乗る前に、最寄りの正規Triumphディーラーで点検修理してもらわなくてはなりません。

ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

### ブレーキライトスイッチ

ブレーキライトは、フロント、リアの違いに関係なく、ブレーキをかければ点灯します。フロントブレーキレバーを引いた時、あるいはリアブレーキペダルを踏んだ時にブレーキライトが点灯しない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーに点検と故障の修理を依頼してください。

**警告**

ブレーキライトに欠陥がある状態でバイクを運転することは、違法であり危険です。

ブレーキライトが故障しているモーターバイクを運転すると、ライダー自身や他の道路利用者までも巻き込む人身事故を起こしかねません。

### ブレーキフルード

両方のリザーバのブレーキフルードレベルを点検し、定期整備表に従ってブレーキフルードを交換してください。フロントとリアにはDOT 4フルード以外のものを使わないでください。

ブレーキフルードに水分やその他の汚染物質が混入した場合、又はその疑いがある場合は、ブレーキフルードを交換しなければなりません。

**警告**

どちらかのリザーバのブレーキフルードが汚染した、あるいは汚染の疑いがある場合は、走行前に、最寄りの正規Triumphディーラーに相談しアドバイスを受けてください。汚染したブレーキフルードを使い続けると、ブレーキの故障の原因となる恐れがあります。ブレーキに欠陥のある状態で走行すると、バイクの制御性が損なわれ事故を招く恐れがあります。

**警告**

どちらかのブレーキフルードリザーバの液面レベルが著しく低下していた場合は、走行前に、最寄りの正規Triumphディーラーにご相談ください。ブレーキフルードレベルが減損している、あるいはブレーキフルードが漏れている状態で走行するのは危険であり、ブレーキ性能を低下させてモーターバイクを制御不能に陥らせ、事故を引き起こす恐れがあります。

**警告**

ブレーキ液には吸湿性があり、大気中の水分を吸収することがあります。

吸収された水分は、ブレーキフルードの沸点を大幅に下げ、ブレーキの制動効率低減の原因となることがあります。

ですから、定期整備表の指示に従って、必ずブレーキフルードを交換してください。

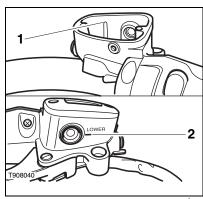
必ず、封がされた容器の新しいブレーキフルードを使用し、封がされていなかったり、既に開けられていた容器からのフルードを使用してはなりません。

ブランドや等級の異なるブレーキフルードを混ぜないでください。

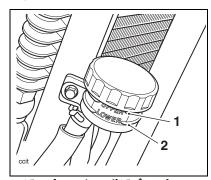
ブレーキの付属器具、シール、ジョイントの周囲にブレーキフルードの漏れがないか点検し、ブレーキホースに亀裂、劣化、損傷がないかも調べてください。

故障があれば、必ず走行前に直してください。

欠陥を見落としたり適切に対処しなかった場合、モーターバイクのコントロールが失われて事故につながるような、危険な走行状態に陥る可能性があります。

## フロントブレーキフルードのレベル点検と調整

1. アッパーレベルライン、フロントブレーキ
2. ロワーレベルライン、フロントブレーキ

- フロントフルードレベルを点検するには、リザーバボディーの前面に付いている窓から見える液面レベルを調べます。
- ブレーキフルードレベルは、アッパーとロワーの間にあることが必要です(リザーバは水平の状態であること)。
- フルードレベルを調整するには、キャップのねじをゆるめ、シーリングダイアフラムの位置を書きとめて、カバーを取り外します。
- 密閉容器に入っていた新しいDOT 4 フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。
- ダイアフラムシールがキャップとタンクボディーの間に適切に置かれていることを確かめながら、カバーを再度取り付けます。
- キャップの留めねじを締めます。

## リアブレーキフルードのレベル点検と調整

1. アッパーレベル、リアブレーキ
2. ロアーレベル、リアブレーキ

- リアブレーキフルードレベルは、リザーバやカバーを取り外さなくても前側から見ることができます。
- リアリザーバ内のブレーキフルードのレベルは、上限と下限を示す線の間に保たれなくてはなりません。
- リアブレーキフルードレベルを調整するには、リザーバをフレームに固定しているネジを外してリザーバカバーを引き離してください。

- リザーバを真っ直ぐ立てて支え、内部のダイヤフラムの位置を書きとめてカバーを取り外します。
- 密閉容器に入っていた DOT 4 フルードを、上限ラインに達するまでタンクに補充してください。
- ダイアフラムシールがキャップとリザーバボディーの間に正しく置かれていることを確かめながら、リザーバキャップを取り付けます。
- 黒いリザーバカバーを正確に取り付け、アッセンブリーをフレームに取り付けて、取り外した時のネジで固定します。ネジを 7 Nm で締め付けます。

## ステアリング / ホイールベアリング

### ステアリングの点検

定期整備表に従って、ヘッドストック（ステアリング）ベアリングの状態の点検と潤滑油の注油を行なってください。

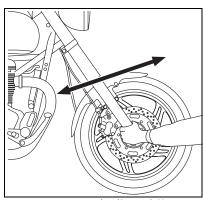
**注記：**

- **ステアリングベアリングの点検を行う際は必ず、同時にホイールベアリングも点検してください。**

**警告**

点検中にモーターバイクが倒れて怪我をすることのないように、モーターバイクがしっかりと支えの上に固定されていることを確認してください。

各ホイールに過度の力を加えたり、激しく揺すったりしないでください。モーターバイクが不安定な状態になったり、あるいは支えから落ちて怪我のもととなる恐れがあるからです。

支えブロックの位置に注意し、オイルラインやサンプの下のオイルフィルターが損傷を受けることのないようにしてください。

ステアリングの遊びの点検

**点検**

- モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。
- フロントホイールを地面から浮かせます。
- フロントフォークの下端を持ち、それを前後に動かしてみます。
- 走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumph ディーラーに依頼してください。

**警告**

調整が不適切だったりステアリングベアリングに欠陥がある状態で運転すると、モーターバイクの制御性が損なわれて事故を引き起こす恐れがあります。

- 支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

## ホイールベアリングの点検

フロントやリアホイールのホイールベアリングとホイールハブとの間に遊びがあり、ノイズが発生したり、ホイールがスムーズに回転したりしない場合は、最寄りの正規Triumphディーラーにホイールベアリングを点検してもらってください。

ホイールベアリングは、定期整備表の中で指定されている間隔で、点検しなければなりません。

- モーターバイクを平らな地面に置き、まっすぐに立てます。
- フロントホイールを地面から浮かせます。
- フロントホイールの上端を左右に静かにゆすってみます。
- 走行前に遊びを感じたら、点検と故障の修理を最寄りの正規Triumph ディーラーに依頼してください。
- 持ち上げ器具を動かし、リアホイールも同様に点検します。

**警告**

磨耗したあるいは損傷を受けたホイールベアリングを付けたまま運転すると、モーターバイクの操縦性と安定性が損なわれ、制御不能になって事故を起こしかねません。不審な点がある場合、走行前に正規Triumphディーラーにモーターバイクを点検してもらってください。

- 支えを取り外し、モーターバイクをサイドスタンドで駐車します。

## フロントサスペンション

### フロントフォークの点検

- 各フォークスタンションに損傷の兆候がないか、スライダー表面に傷がないか、オイル漏れがないかを調べます。
- 損傷や漏れが見つかった場合は、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

フォークがスムーズに作動するかを点検するには：

- モーターバイクを平らな地面に置きます。
- ハンドルを握ってフロントブレーキをかけながら、フォークを数回上下に動かしてください。

注記：

- **動きが滑らかでなく、過度な硬さが感じられる場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。**

**警告**

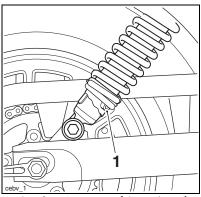
損傷や欠陥のあるサスペンションの付いたモーターバイクを運転すると、バイクに損傷を与え、バイクを制御しきれなくなって事故を起こすことがあります。

### サスペンションの設定

America と Speedmaster モデルは、調整不能のフロントサスペンションを装備しています。

**警告**

サスペンションユニットは、どの部分であっても絶対に分解しないでください。すべてのユニットには、加圧オイルが入っています。加圧オイルに触れると、皮膚や目を傷める恐れがあります。

### リアサスペンションの調整

1. リアサスペンションプリロードアジャスター－全モデル

標準的なリアサスペンションプリロード設定にすると、一般的な単独走行において、優れた乗り心地と良好なハンドリング特性が得られます。(見開きのページ) の表は、さまざまなロード条件下でのリアサスペンションプリロード設定の目安を示したものです。

リアサスペンションのスプリングプリロードの設定値を変えるには、アジャスターリングに付いている穴に適したツールを差し込んでください。

スプリングプリロードを大きくするにはアジャスターリングを時計回りに回し、小さくするには反時計回りに回します。

**警告**

アジャスターは両方のリアサスペンションユニット上の設定値が同じになるよう設定されていることを確認します。左右の設定が異なると、操作性と安定性が損なわれてモータバイクは制御不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。

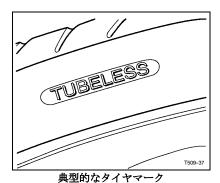
### 目安となるサスペンション設定値

リアアジャスター設定値は、アジャスターを反時計回りに完全に回し切ったところをポジション1とし、1から数えます。アジャスターポジションは合計 5 つあります。ポジション1に設定すると、スプリングプリロードは最小になります。

| 積載状態 | リアアジャスターポジション |
|---|---|
| 単独走行ー軟らかめ | 1 |
| 単独走行ー標準 | 2 |
| 単独走行ー硬め | 3 |
| ライダーと同乗者 | 5 |

注記：

- 本表に記載されている数値は、ライダーと同乗者の体重が、それぞれ 90 kg またはそれ以下と仮定しての目安に過ぎません。設定条件は、運転者と同乗者の体重や好みによって増えることになるでしょう。

## タイヤ

典型的なタイヤマーク

典型的なタイヤマーク

両方のモデルとも、チューブレスタイヤ、バルブ、ホイールリムを装備しています。「TUBELESS (チューブレス)」のマークのついたタイヤと、リムに「SUITABLE FOR TUBELESS TYRES(チューブレスタイヤに適合)」のマークのついたチューブレスバルブのみを使用してください。

### タイヤ空気圧

適正なタイヤ空気圧は、最大限の安定性と快適な乗り心地をもたらし、タイヤの寿命を延ばします。タイヤ空気圧の点検は、必ず走行前のタイヤが冷えている時に行なってください。

タイヤ空気圧は毎日点検し、必要に応じて調整してください(適当な空気圧に関しては仕様の章を参照してください)。あるいは、最寄りの正規 Triumph ディーラーで、ホイールとタイヤを点検してもらってください。

**警告**

タイヤの空気圧が適当でないと、トレッドが異常に磨耗して不安定さが問題となり、制御不能に陥って事故につながる危険があります。

空気圧が低すぎると、タイヤがスリップしたり、リムから外れる結果になりかねません。空気圧が高すぎると不安定な状態になり、トレッドの磨耗を早めることがあります。

どちらの状態も危険です。バイクが制御不能に陥って事故を引き起こす危険があるからです。

## タイヤの磨耗

トレッドが磨耗してくるにつれ、タイヤはパンクしやすくなります。タイヤの問題の90%は、トレッドの寿命が尽きる前の10%（90%磨耗）の期間に発生していると推定されます。したがって、トレッドの許容深度ギリギリまでタイヤを使用しないでください。

### トレッドの推奨最小深度

定期整備表に従って、デプスゲージでトレッドの深さを測り、トレッドの深さが下の表に記されている許容最小限度を超えて磨耗しているタイヤはすべて交換してください。

| 時速 130 km/h 以下 | 2 mm |
|---|---|
| 130 km/h 以上 | リア 3 mm |

**警告**

本モーターバイクは、認可されたサーキットの整えられた条件の下でなければ、法定制限速度を超えるスピードで運転してはなりません。

**警告**

本 Triumph モーターバイクの高速走行は、定められたコースで行われるロードレース、あるいはサーキットでのみ行なってください。高速走行をするのに必要なテクニックを修得し、本モーターバイクのあらゆる状況における特性を熟知しているライダーしか、高速運転を試みてはなりません。高速走行は、他のいかなる状況下でも危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故を引き起こすことがあります。

**警告**

過度に磨耗したタイヤで走行することは危険であり、トラクション、安定性、操縦性に悪影響を及ぼします。そのため、制御性が損なわれて事故につながる恐れがあります。

チューブレスタイヤがパンクした場合、空気は極めてゆっくり漏れるのが普通です。パンクしていないか、常に念入りに調べてください。タイヤに切り傷がないか、釘や尖ったものが刺さっていないか調べてください。パンクや損傷のあるタイヤで運転すると、モーターバイクの安定性と操縦性に悪影響を及ぼし、コントロールが失われて事故につながることがあります。

リムにへこみや変形がないか調べてください。損傷や欠陥のあるホイールやタイヤでの走行は危険であり、モーターバイクを制御しきれなくなって事故に帰する恐れがあります。

タイヤの交換やタイヤの安全点検については、必ず最寄りの正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

### タイヤの交換

Triumph 製のモーターバイクはすべて、モデル毎に最適なタイヤを組み合わせるために、様々な走行条件で厳密にテストされています。交換用タイヤを購入する際は、認可された組み合わせで取り付けられている承認タイヤを選ぶことが極めて大切です。承認されていないタイヤを使ったり、あるいは、承認タイヤを認可されていない組み合わせで使うと、バイクは不安定になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあります。承認されているタイヤの組み合わせに関する詳細は、仕様の章を参照してください。タイヤの取り付けとバランス調整は、安全で効果的な取り付けを確実にするために、必ず、必要なトレーニングを受け技能を有する、正規 Triumph ディーラーにしてもらってください。

**警告**

タイヤがパンクした場合は、交換しなければなりません。パンクしたタイヤを交換しなかったり、修理したタイヤで走行すると、バイクは不安定になって制御不能に陥ったり、事故を招く恐れがあります。

**⚠ 警告**

チューブレスリムにチューブタイプのタイヤを取り付けないでください。ビードが定着せず、タイヤがリムの上でスリップする可能性があり、タイヤの収縮が早まってコントロール不能に陥り、事故に帰する恐れがあります。チューブレスタイヤの内側にインナーチューブを入れてはなりません。そのようなことをすると、タイヤの内部で摩擦が生じ、熱が発生してチューブが破裂し、急速にタイヤが収縮して、バイクのコントロールが失われ事故を起こす恐れがあります。

**⚠ 警告**

カーブに突き当たったりして、タイヤの損傷の可能性がある場合は、最寄りの正規 Triumph ディーラーに依頼して、タイヤの内側と外側の両方を点検してもらってください。タイヤの損傷は、必ずしも外側からは見えないことに留意してください。損傷したタイヤを付けたままでモーターバイクを運転すると、制御性が損なわれて事故を招く場合があります。

**⚠ 警告**

タイヤの交換が必要な時は、最寄りの正規Triumphディーラーに相談してください。承認リストの中から正しい組み合わせのタイヤが選択されるよう手筈を整え、タイヤメーカーの指示に従って取り付けを致します。

タイヤを交換した時は、リムに馴染むまで余裕をみてください（約 24 時間）。馴染むまでの間は、慎重に運転してください。タイヤがぴったりはまっていないと、制御不能に陥って事故を引き起こすことがあります。

新しいタイヤは、最初の内は、摩耗したタイヤとは異なるハンドリング特性を発揮します。ライダーは、新しいハンドリング特性に慣れるまで、十分な走行距離（約 160 キロ）を見込んでおく必要があります。

取り付けてから 24 時間後に、タイヤ圧を調べて調整し、タイヤが正しくはめ込まれているか点検してください。必要に応じて修正してください。

取り付け後 160 キロ走行した時点で、同様の点検と調整を行なう必要があります。

不適切なタイヤの取り付け、タイヤ空気圧の調整の不備、ハンドリング特性に慣れていないといった状態の時にモーターバイクを運転すると、コントロールが失われて事故を招く恐れがあります。

**警告**

ローリングロードダイナモメーター上で使用されてきたタイヤは、損傷を受けていることがあります。タイヤは、外観を見ただけでは損傷が分からないことがあります。そのような使い方をした後のタイヤは交換しなければなりません。傷んだタイヤを使い続けると不安定な状態になり、制御不能に陥って事故を招く恐れがあるからです。

**警告**

モータバイクの安全で安定した操縦には、精確なホイールバランスが欠かせません。ホイールバランスウェイトを取り外したり、変えたりしないでください。ホイールバランスが適切でなければ、不安定な状態に陥り、制御不能に陥って事故を起こしかねません。

ホイールバランスの調整が必要な時は、例えばタイヤとインナーチューブを交換した後など、正規 Triumph ディーラーにご相談ください。

自動接着性のウェイト以外は使わないでください。クリップオンウエイトは、ホイールやタイヤに損傷を与え、タイヤの空気圧を低下させるため、バランスを崩して事故になる恐れがあります。

## バッテリー

**警告**

バッテリーは引火性のガスを発生させる時があります ; 火花、炎、タバコなどは絶対に近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸 (バッテリー液) が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

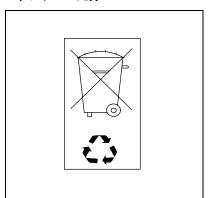
バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

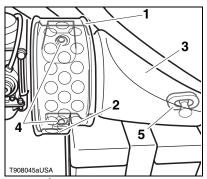
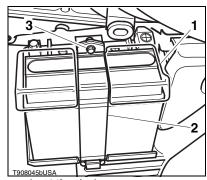
バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

**⚠ 警告**

バッテリーには有毒物質が含まれています。バッテリーは、モーターバイクに取り付けられていてもいなくても、子供の手の届かない所に置いてください。

バッテリーをジャンプスタートさせたり、バッテリーケーブルを互いに接触させたり、ケーブルの両極を逆にしたりしないでください。火花が出てバッテリーのガスを発火させ、人身事故のリスクを高める恐れがあります。

## バッテリーの処分

万一バッテリー交換が必要になった場合、古いバッテリーは回収業者に引き渡す必要があります。バッテリー製造に使用されている有害物質が環境を汚染することのないように処分してくれます。

## バッテリーの取り外し

1. エアボックスフィニッシャー
2. エアボックスフィニッシャー固定具
3. エアボックスカバー
4. エアボックスカバー固定具
5. スタッドおよびグロメットの位置

1. バッテリーカバー
2. バッテリーカバーストラップ
3. バッテリーカバーストラップ固定具

- エアボックスフィニッシャーをエアボックスカバーに固定しているネジを外します。フィニッシャーを取り外します。
- エアボックスカバーをエアボックスに固定しているネジを外します。
- カバーをモーターバイクから離すようにそっと動かし、カバーの後部にあるスタッドをグロメットから外します。
- 固定具をバッテリーカバーストラップから外します。
- ストラップを下端の蝶つがいから外し、バッテリーカバーを取り外します。
- 最初にマイナス(黒)の方からバッテリーのリード線を外します。

**警告**

バッテリーの端子が、どの部分であろうとモーターバイクに触れないように気をつけてください。ショートを起こしたり火花が出てバッテリーのガスに引火し、人身事故やモーターバイクの損傷の原因となる恐れがあります。

- バッテリーを傾けて上部から外側に引き上げ、バッテリートレイから外します。

### バッテリーの整備

乾いたきれいな布でバッテリーの汚れを落としてください。リード線の接続部も必ずきれいにしてください。

**警告**

バッテリー液は腐食性があって有毒であり、露わになっている皮膚を損ないます。絶対にバッテリー液を飲み込んだり、皮膚につけたりしないでください。バッテリーを扱う時は、目や皮膚を傷めないように、必ず防具類を身につけてください。

本バッテリーは密閉タイプですから整備の必要はなく、保管中に電圧チェックや定期的な充電が必要なだけです。

バッテリーの液量を調整することはできないので、シールストリップを取り外してください。

### バッテリの放電

**注意**

バッテリー充電レベルの管理は、バッテリー寿命を最大限に延ばすために必要です。

バッテリーの充電レベルを適正に維持しないと、バッテリー内部に重大な損傷を生じるおそれがあります。

通常の使用状態では、モーターバイクの充電システムは完全な充電状態を保ちます。しかし、モーターバイクに長い間乗っていないと、自己放電という自然作用によりバッテリーは次第に放電してしまいます。時計、エンジン制御モジュール (ECM) メモリー、高い周囲温度、または電気を消費する付属品やアクセサリーの追加などのため、バッテリーの放電が増早まります。モーターバイクからバッテリーを外しておけば、放電を遅くすることができます。

## モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの放電

モータバイクから外してあるバッテリー、あまり乗らないモータバイクのバッテリーの場合、デジタルマルチメーターで毎週電圧を測ってください。メーターに同梱されているメーカーの指示書に従ってください。バッテリー電圧が 12.7 V 以下になった場合、バッテリーの充電を行ってください ( ページ *84* 参照 )。

バッテリーの放電を防がなかったり、たとえ僅かな時間でも放電したままに放置すると、鉛電極板に硫酸化を発生します。硫酸化はバッテリー内部で生じる正常な化学反応ですが、長い期間続くと電極板に結晶を生じ、回復が困難になったり、不可能になります。このような永久的な損傷は、製造上の欠陥ではないので、モーターバイクの保証ではカバーされておりません。

バッテリーを常にフルに充電しておくと、寒冷時に凍結しにくくなります。バッテリーが凍結すると、バッテリー内部に重大な損傷を生じます。

## バッテリーの充電

バッテリー充電器の選択、バッテリー電圧のチェックまたはバッテリーの充電に関する詳しいことは、貴地の Triumph ディーラーにご連絡ください。

**警告**

バッテリーは爆発性のガスを放出します ; 火花や火炎、タバコを近づけないでください。閉め切った場所でバッテリーを充電したり使用する場合は、十分な換気を行なってください。

バッテリーには硫酸 (バッテリー液) が入っています。皮膚や目に付着するとひどい火傷をする恐れがあります。防護服とフェースマスクを着用してください。

バッテリー液が皮膚についたら、直ちに水で洗ってください。

バッテリー液が目に入った場合、最低でも 15 分間水で洗い、医者の治療を受けてください。

バッテリー液を飲み込んだ場合、大量の水を飲み、医者の治療を受けてください。

バッテリー液は子どもの手の届かない所に置いてください。

**注意**

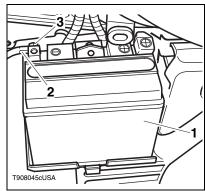
充電過剰になってバッテリーを損なうので、自動クイックチャージャーを使用しないでください。

バッテリー電圧が 12.7V 以下になったら、バッテリーは Triumph が承認するバッテリー充電器で充電してください。モータバイクから必ずバッテリーを取り外し、バッテリーチャージャーに同梱されていたマニュアルにしたがってください。

長期（2 週間以上）に亘りモーターバイクを保管するときは、バッテリーを取り外し、Triumph が承認する整備用の充電器を使用して常に充電した状態に保ってください。

同様に、バッテリーがモーターバイクを始動できないところまで放電しているときは、バッテリーを取り外してから充電してください。

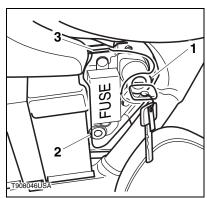
## バッテリーの取り付け

- エンジン制御モジュール（ECM）とそのゴム製カバーが、バッテリーの裏側に適切に設置されていることを確認ししてください。
- 端子がモーターバイクに接触しないよう注意しつつ、バッテリーをトレイの上に置きます。
- 最初にプラス（赤）のリード線からバッテリーに再接続。
- バッテリーのマイナスのリード線が、下図のようにバッテリー端子の後方に取り付けられているか確認してください。

1. バッテリー
2. マイナスリード線
3. マイナス端子固定具

- 腐食を防ぐために、端子にグリースを薄く塗ってください。
- プラスの端子に保護キャップをかぶせます。
- バッテリカバーを取り付け、バッテリーストラップを組み立てます。バッテリーストラップの固定具を 9 Nm で締め付けます。
- エアボックスカバーとフィニッシャーを組み立て、固定具を 3 Nm で締め付けます。エアボックスカバースタッドが正しく取り付けられていることを確認します。

## ヒューズ

### ヒューズの位置

ヒューズ作業をするには、イグニッションスイッチフィニッシャーを底の方から外側にそっと動かします。留めグロメットから外れたら、蝶つがいを使ってカバーを持ち上げ、ブラケットに付いているスロットから外します。

1. イグニッションスイッチカバー
2. 留めグロメット
3. ブラケットスロット

### ヒューズの交換

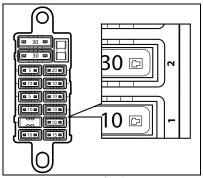
運転中にヒューズが切れた場合は、電装系統を点検して原因を見つけてから、同じ（正しい）定格電流の新しいヒューズに代えてください。

**警告**

切れたヒューズは必ず正しい定格電流（ヒューズボックスのカバーに明記されている）のヒューズで付け替え、絶対に定格が上のヒューズは使わないでください。

正しくない定格のヒューズを使用すると、電装系統のトラブルの元となってバイクに損傷を与え、バイクを制御不能に陥らせて事故に帰する場合があります。

### ヒューズの識別

ヒューズは、下図のように、各ヒューズに隣接したヒューズボックスハウジングに付いている番号によって識別できます。これらの番号は次ページの表に記載されている番号に対応しています。識別番号の付いていないヒューズはスペアで、使った後は補充しなくてはなりません。

ヒューズの識別

切れているヒューズは、そのヒューズで保護されているシステムのすべてが作動不能となるため、識別できます。どのヒューズが切れたかを調べる時は、以下の表を参考にしてください。

| ヒューズ番号 | 保護回路 | ヒューズ定格（アンペア） |
|---|---|---|
| 1 | アクセサリーライト | 10 |
| 2 | アラーム、GPS | 10 |
| 3 | アクセサリ用ソケット、診断ツールコネクタ | 10 |
| 4 | イグニッションスイッチ主要給電、計器照明 | 10 |
| 5 | エンジン管理システム | 20 |
| 6 | 不使用 | - |
| 7 | 方向インジケーター、ブレーキライト、ホーン | 10 |
| 8 | ポジションライト | 5 |
| 9 | ディプ / メインビーム | 10 |
| 10 | ポジションライト | 5 |
| 11 | 主要バッテリーヒューズ | 30 |

注記：

- ヒューズボックスには、30、20、10アンペアのスペアヒューズしか入っていません。5 アンペアのスペアヒューズも入れておく必要があるでしょう。

## ヘッドライト

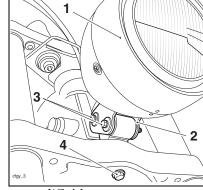
**警告**

走行速度は、モーターバイクが走行している時の視界や気象条件に適した速度に調節してください。

対向車の運転手の目を眩ませることなく、前方を十分遠くまで照らせるようにビームを調整してください。ヘッドライトの調整が適切でないと、視界が悪くなり、コントロールを失って、事故を招く危険があります。

**警告**

モーターバイクが走行中は、絶対にヘッドライトビームの調整を試みないでください。

走行中にヘッドライトビームを調整しようとすると、バイクの制御性が損なわれて事故に帰する恐れがあります。

1. ヘッドライト
2. ヘッドライトブラケット
3. ピンチボルト（垂直設定）
4. ブラケット固定具（水平設定）

## ヘッドライトの調整

### 左右調整

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

ヘッドライト取り付けブラケット固定具をゆるめます。

所定のビーム設定にするため、ヘッドライトと取り付けブラケットの水平位置を調整します。

ブラケット固定具を 35 Nm で締め付けます。

ヘッドライトビームの設定を再チェックします。

ビームの設定ができたら、ヘッドライトのスイッチを切ってください。

### 上下調整

ヘッドライトディップビームのスイッチを入れます。

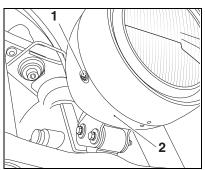
America の場合、下側ピッチボルトを緩めます。Speedmaster の場合、上側ピッチボルトを緩めます。

ヘッドライトの位置を、所期のビーム設定が得られるように調整します。

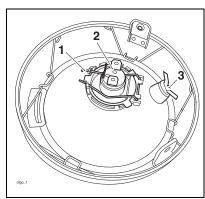
ブラケットピンチボルトを12 Nmまで締め付けます。

ヘッドライトビームの設定を再チェックします。

ビームの設定ができたら、ヘッドライトのスイッチを切ってください。

## ヘッドライト／ポジションライトのバルブの交換

1. ヘッドライトリムのネジ
2. ヘッドライトボール

- 最初にマイナス（黒）のリード線からバッテリーの接続を外します。
- ヘッドライトリムのねじを外します。
- ヘッドライトボールからヘッドライトとリムアセンブリーを外します。
- ライトユニットを支えながら、ヘッドライトバルブからマルチピン電気コネクターを、ポジションライトから 2 個のスペードコネクターを外します。
- ゴム製のダストカバーを外します。
- ヘッドライトバルブのワイヤリテイナーのフックを外します。
- これでヘッドライトバルブが取り外せます。
- ポジションライトバルブを取り外すには、ヘッドライトボディーからバルブホルダーを離し、バルブを取り外します。

・ 取り付けは、取り外しと逆の手順で行ないます。

1. ワイヤリテイナー
2. ヘッドライト電球
3. ポジションライト

**警告**

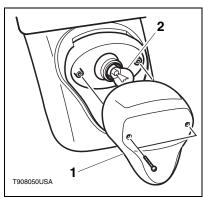
組立作業が完了するまで、バッテリーを再接続しないでください。作業の途中で再接続すると、バッテリーガスに引火して負傷事故をもたらしかねません。

**警告**

電球は使用中は熱くなります。時間を十分かけて電球を冷ましてから、取り扱ってください。電球のガラス部分には触れないでください。ガラスに触れたり汚したりした時は、再使用する前にアルコールで拭き取ってください。

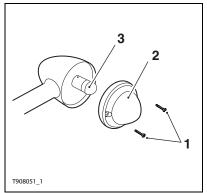
**注意**

バッテリーへの再接続は、プラス（赤）のリード線から行なってください。

## リアライト／ライセンスプレートライト

1. リアライトレンズ用ネジ、図は America
2. 電球

### バルブの交換

- リヤライトレンズを固定しているねじを外します。
- レンズを取り外します。
- このバルブはバイオネットタイプです。取り外すには、そっと押し込んで、反時計回りにねじってください。
- 取り付けは、取り外しと逆の手順で行ないます。

## 方向指示灯

1. インジケーターレンズ用ネジ
2. レンズ
3. 電球

### バルブの交換

- 各インジケーターライトのレンズは、ねじで所定の場所に留めてあります。
- ネジをゆるめレンズを取り外すと、バルブ交換作業ができます。

## 洗車

定期的な洗車は、お持ちのモーターバイクの整備に欠かすことのできないものです。定期的に洗車すると、長年にわたって新車のような外観が保たれます。自動車用の洗剤を溶かした水で洗車することは、いつの場合にも大切ですが、海風や海水にさらされた後や、埃っぽい道やぬかるんだ道、冬場の融雪剤をまいた路面を走行した後は、殊に大切です。家庭用洗剤は使わないでください。その種の製品は、腐食を早めることがあるからです。

お持ちのモーターバイクの保証書の条件に基づき、特定の部品の腐食は保証の対象となっていますが、オーナーもモーターバイクを腐食から守り、外観を向上させる手段となる、本章の注意を守るようにしてください。

### 洗車の準備

洗車を行なう前に、下記の部分を濡らさないよう予防策を講ずる必要があります。

- 排気管の後部開口部：ビニール袋で覆い、ゴムバンドで動かないようにします。
- クラッチとブレーキレバー、ハンドル上のスイッチハウジング：ビニール袋で覆います。
- イグニッションスイッチ / ステアリングロック：キーホールをテープで覆います。

指輪、時計、ジッパー、ベルトのバックルのような装飾品は取り外します。塗装面や磨き上げられた面にひっかき傷をつけたり、損傷を与える恐れがあります。

塗装された/磨き上げられた表面とシャーシ付近の洗浄には、別のスポンジまたは洗い布を使ってください。シャーシ付近（ホイールやマッドガードの下）は、ざらざらした道路のほこりやちりにまみれるので、その部分の洗浄に使われたスポンジや洗い布を使うと、塗装してある、あるいは磨き上げられた表面にひっかき傷をつける恐れがあります。

### 注意すべき部分

下記のところには、勢いよく水を吹きつけないようにしてください：

- 計器類
- ブレーキシリンダーとブレーキキャリパー
- 燃料タンクの下
- ドライブチェーンとヘッドストックベアリング

**⚠ 注意**

ライダーシートの下には絶対に水をかけないでください。エンジンの吸気ダクトが燃料タンクの下にあるため、この付近に水をかけるとエアボックスとエンジンに浸入して損傷を与える恐れがあります。

**⚠ 注意**

高圧スプレー洗車機の使用はお勧めできません。高圧洗車機使うと、噴射された水がベアリングなどの部品内に浸入し、腐食や潤滑油の損失が原因で磨耗を早めます。

注記：

- アルカリ性の強い洗剤を使うと、塗装された表面に残留物が残り、しみになりかねません。洗車プロセスの助けとなるように、必ず弱アルカリ性の洗剤を使ってください。

## シートケア

**⚠ 注意**

シートのクリーニングに、化学薬品や高圧洗浄機の使用は奨励しません。化学薬品や高圧洗浄機を使用すると、シートカバーを損なう恐れがあります。

外見を保つため、石鹸と水を含ませたスポンジとクリーニング用布で、シートを洗浄してください。

## 洗車後

- ゴムバンド、ビニール袋、テープを取り外し、吸気口もきれいにします。
- ピボット、ボルト、ナット類に注油します。
- モーターバイクを運転する前にブレーキテストをします。
- エンジンを始動させ、5 分間回転させます。排気ガスがこもらないよう換気を良くしてください。
- 乾いた布で、残った水分を拭き取ります。腐食につながりますので、マシンに水分がついたままにしないでください。

**⚠ 警告**

ブレーキディスクには、絶対にワックスや潤滑油を施さないでください。制動力が低下し、事故に帰する恐れがあります。ディスクを拭く時は、オイルを含まないブレーキディスク専用クリーナーを使ってください。

## 塗装されていないアルミニウム部品

- 一部モデルのブレーキやクラッチレバーといった品目、ホイール、エンジンカバー、トップヨーク、ボトムヨークは、適切に清掃して外観を保ちます。モーターバイクの未塗装アルミニウム部品がどれか分からない場合、正規販売店にお問い合わせください。
- 研磨剤や腐食成分を含まない、専用ブランドのアルミニウムクリーナーを使ってください。
- アルミニウム製部品は定期的に汚れを落としてください。特に悪天候の中を走行した後は、必ず各部品を手洗いして乾燥させてください。
- 整備が不十分な場合は、保証の対象となりませんのでご注意ください。

## 排気装置の清掃

外観が損なわれないようにするために、モーターバイクの排気装置の部品は全て定期的にクリーニングする必要があります。

注記：

- **水滴の跡が残らないよう、排気装置は十分冷えるのを待って洗浄しなくてはなりません。**

### 洗浄

- 水に低刺激の自動車用洗剤を混ぜたものを用意します。一般に洗車場などで見られるアルカリ性の強い洗剤は使用しないでください。残留物が残るからです。
- 柔らかい布で、排気装置を洗浄します。研磨パッドやスチールウールは使用しないでください。仕上げを損なうことがあります。
- 排気装置を徹底的にすすいでください。
- 排気管に石鹸水や水が入らないようにしてください。

### 乾燥

- 柔らかい布で、排気装置の水分を完全に拭き取ります。エンジンをかけて乾燥させないでください。水滴の跡が残ります。

### 保護

- 排気装置が乾いたら、「Motorex 645 Clean and Protect 」を表面にすり込みます。

**⚠ 注意**

シリコンを含む製品を使うとクロムの変色を招くことがありますので、使わないでください。同様に、研磨剤入り洗剤や光沢剤を使うと、システムを損傷することがあるので使わないでください。

- 排気装置には保護剤を定期的に塗ることをお勧めします。装置の外観を保護し、きれいに保てます。

### アクセサリフロントガラスの清掃

ウィンドスクリーンは、弱性石鹸か洗剤の溶液とぬるま湯で汚れを落としてください。洗浄後はよくすすぎ、柔らかく糸くずの出ない布で拭いてください。

**注意**

ウィンドウの洗浄液、昆虫除去剤、撥水剤、研磨剤、ガソリン、あるいはアルコール、アセトン、四塩化炭素などのような洗浄力の強い溶剤は、ウィンドスクリーンに損傷を与えます。絶対に、これらの製品をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

除去できないひっかき傷や酸化により、ウィンドスクリーンの透明度が落ちてきた場合、ウィンドスクリーンは交換する必要があります。

**警告**

モーターバイクが走行中にウィンドスクリーンの汚れを落とそうとしてはなりません。ハンドルから手を離すと車両は制御不能に陥って、事故を引き起こしかねないからです。

ウィンドスクリーンに損傷やひっかき傷のある状態でモーターバイクを運転すると、ライダーの視界が悪くなります。視界が悪いと危険であり、人身事故を引き起こしかねません。

**注意**

バッテリー液などの腐食液はフロントガラスを損ないます。絶対に、腐食性化学物質をウィンドスクリーンに触れさせないでください。

# 保管

## 保管前の準備

車体全体をくまなくきれいにします。

正しい等級の無鉛燃料を燃料タンクに給油し、燃料安定剤メーカーの指示に基づいて燃料安定剤があれば添加してください。

**警告**

ガソリン（燃料）は非常に可燃性が高く、特定の条件下では爆発する可能性があります。したがって、イグニッションスイッチをオフにします。禁煙厳守。場所は換気が良く、火炎や火花の元となる物がないことを確認してください。たとえば、パイロットランプ付きの電気・ガス器具などです。

シリンダーからスパークプラグを外し、エンジンオイルをシリンダーごとに数滴（5 cc）垂らします。スパークプラグ孔を布切れでカバーします。エンジンのストップスイッチを RUN ポジションにした状態で、スターターボタンを数秒間押して、シリンダー壁にオイルを行き渡らせます。スパークプラグを取付け、20 Nm のトルクで締め付けます。

エンジンオイルとフィルターを交換します（ページ *58* 参照）。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（ページ *101* 参照）。

両輪が地面から浮き上がるように、モーターバイクのスタンドを立てます。（これが無理なら、前輪と後輪の下に板を敷いて、タイヤを湿気から護ってください。）

塗装されていない金属面に防錆油（市場には多くの製品が出回っているので、貴地の代理店に問い合わせてください）をスプレーします。ゴム製部品、ブレーキディスク、ブレーキキャリパーにオイルが付着しないようにしてください。

チェーンをチェックし、調整します（*66*ページを参照）。

バッテリーを取り外し、直射日光が当たらず、湿気のない、気温が氷点下にならない場所に保管してください。保管中のバッテリーは、隔週に一度のペースで緩速充電（1 アンペア以下）してください（ページ *82* 参照）。

## 保管後の走行準備

（取り外してある）バッテリーを取り付けてください（ページ *85* 参照）。

4ヶ月以上乗らなかったモータバイクの場合、エンジンオイルを交換してください（ページ *58* 参照）。

日常の安全点検項目をすべてチェックします（ページ *35* 参照）。

エンジンを始動する前に、シリンダーからスパークプラグをすべて取り外してください。

サイドスタンドを降ろします。

油圧警告ランプが消えるまで、スタータモーターでエンジンを数回回転させます。

スパークプラグを交換し20 Nmのトルクで締め付け、エンジンを始動させます。

点検を行い、タイヤ空気圧を規定値にします（ページ *101* 参照）。

ブレーキをチェックし、調整します。

低速でモーターバイクを試運転します。

# 仕様

| | America | Speedmaster |
|---|---|---|
| **性能** | | |
| 最大出力. . . . . . . . . . . . . | 61 PS @ 6,800 rpm | 61 PS @ 6,800 rpm |
| 最大トルク. . . . . . . . . . . . | 72.4 Nm @ 3,300 rpm | 72.4 Nm @ 3,300 rpm |
| **寸法** | | |
| 全長. . . . . . . . . . . . . . . | 2,387 mm | 2,367 mm |
| 全幅. . . . . . . . . . . . . . . | 920 mm | 895 mm |
| 全高. . . . . . . . . . . . . . . | 1,175 mm | 1,170 mm |
| 輪間距離. . . . . . . . . . . . . | 1,610 mm | 1,600 mm |
| シート高. . . . . . . . . . . . . | 690 mm | 690 mm |
| ウェットウエイト. . . . . . . . . | 226 kg | 229 kg |
| 最大車載重量. . . . . . . . . . .<br>(ライダー、同乗者、アクセサリー) | 200 kg | 200 kg |
| **エンジン** | | |
| タイプ. . . . . . . . . . . . . . | 空冷直列２気筒<br>270° 度の点火角度 | 空冷直列２気筒<br>270° 度の点火角度 |
| 排気量. . . . . . . . . . . . . . | 865 cc | 865 cc |
| ボア x ストローク . . . . . . . . | 90 x 68 mm | 90 x 68 mm |
| 圧縮比. . . . . . . . . . . . . . | 9.2:1 | 9.2:1 |
| シリンダナンバー. . . . . . . . . | 左から右へ | 左から右へ |
| 順番. . . . . . . . . . . . . . . | 1-2 | 1-2 |
| 点火順. . . . . . . . . . . . . . | 1-2 | 1-2 |
| 始動方式. . . . . . . . . . . . . | 電動スターター | 電動スターター |

| | America | Speedmaster |
|---|---|---|
| **潤滑** | | |
| 潤滑装置. . . . . . . . . . . . . | ウエットサンプ方式 | ウエットサンプ方式 |
| エンジンオイル容量ガイドライン | | |
| ( ドライフィル ) . . . . . . . . . | 4.5 リッター | 4.5 リッター |
| (オイルおよびフィルタ交換). . . . | 3.8 リッター | 3.8 リッター |
| ( オイルチェンジのみ ) . . . . . . | 3.3 リッター | 3.3 リッター |

注記：サイトグラスマークで常にオイルレベルが正しいか調べてください。

| | 全モデル |
|---|---|
| **燃料システム** | |
| タイプ. . . . . . . . . . . . . . . . | シーケンシャル電子燃料噴射 |
| 燃料ポンプ. . . . . . . . . . . . . . | サブマージ電動型 |
| 燃料圧. . . . . . . . . . . . . . . . | 3.0 バール |
| **燃料** | |
| タイプ. . . . . . . . . . . . . . . . | 無鉛（最低 91 RON） |
| タンク容量. . . . . . . . . . . . . . | 19.5 リッター |
| **エミッションコントロール装置** | |
| タイプ. . . . . . . . . . . . . . . . | パルスセカンダリエアインジェクション付きツインカタリスト |
| **イグニッション** | |
| 点火方式. . . . . . . . . . . . . . . | デジタルエレクトロニック |
| スパークプラグ. . . . . . . . . . . . | NGK DPR8EA-9 |
| ギャップ. . . . . . . . . . . . . . . | 0.8 - 0.9 mm |

| | America | Speedmaster |
|---|---|---|
| トランスミッション | | |
| タイプ. . . . . . . . . . . . . . | 5速、常時噛合式 | 5速、常時噛合式 |
| クラッチ. . . . . . . . . . . . . | 湿式多版 | 湿式多版 |
| プライマリドライブ. . . . . . . . | ギア | ギア |
| ファイナルドライブ. . . . . . . . | チェーン DID 525<br>VM2 112 環エンドス | チェーン DID 525<br>VM2 112 環エンドス |
| プライマリドライブ比. . . . . . . | 1.74:1 (62/108) | 1.74:1 (62/108) |
| ファイナルドライブ比. . . . . . . | 2.333:1 (18/42) | 2.333:1 (18/42) |
| ギア比 | | |
| 1速. . . . . . . . . . . . . . . | 2.73:1 (41/15) | 2.73:1 (41/15) |
| 2速. . . . . . . . . . . . . . . | 1.95:1 (37/19) | 1.95:1 (37/19) |
| 3速. . . . . . . . . . . . . . . | 1.55:1 (34/22) | 1.55:1 (34/22) |
| 4速. . . . . . . . . . . . . . . | 1.29:1 (31/24) | 1.29:1 (31/24) |
| 5速. . . . . . . . . . . . . . . | 1.07:1 (29/27) | 1.07:1 (29/27) |

| | America | Speedmaster |
|---|---|---|
| **タイヤ** | | |
| **タイヤ空気圧（冷寒時）** | | |
| フロント. . . . . . . . . . . . . | 2.00 バール | 2.50 バール |
| リア. . . . . . . . . . . . . . . | 2.90 バール | 2.90 バール |
| オプション 1 | | |
| フロント. . . . . . . . . . . . . | Metzeler ME880<br>130/90 - 16 | Metzeler ME880<br>100/90 - 19 |
| リア. . . . . . . . . . . . . . . | Metzeler ME880<br>170/80B - 15 | Metzeler ME880<br>170/80B - 15 |
| オプション 2 | | |
| フロント. . . . . . . . . . . . . | N/A | N/A |
| リア. . . . . . . . . . . . . . . | N/A | N/A |

**警告**

必ず指定の組み合わせで、推奨タイヤオプションのみを使用してください。メーカーの異なるタイヤ、また同一メーカーでも仕様の異なるタイヤを混用しないでください。

# 仕様

| | 全モデル |
|---|---|
| **電装品** | |
| バッテリー. . . . . . . . . . . . . | 12 V 10 Ah |
| オルタネーター. . . . . . . . . . . | 24 A @ 2,000 rpm<br>26 A @ 4,000 rpm |
| ヘッドライト. . . . . . . . . . . . | 12 V 60/55 W<br>ハロゲン H4 |
| テール / ブレーキランプ. . . . . . . | 12 V 5/21 W |
| 方向指示ランプ. . . . . . . . . . . | 12 V 21 W |
| **フレーム** | |
| すくい角. . . . . . . . . . . . . . | 33.3° |
| トレール. . . . . . . . . . . . . . | 153 mm |
| **締付トルク** | |
| オイルフィルター. . . . . . . . . . | 10 Nm |
| サンプドレンプラグ. . . . . . . . . | 25 Nm |
| スパークプラグ. . . . . . . . . . . | 20 Nm |
| **フルードと潤滑剤** | |
| **エンジンオイル** | |
| API SH（またはそれ以上）と JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 モーターバイク用エンジンオイル、例えば Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成） | API SH（またはそれ以上）と JASO MA 仕様にかなった半合成または完全合成の 10W/40 もしくは 10W/50 モーターバイク用エンジンオイル、例えば Castrol Power 1 Racing 4T 10W-40（完全合成） |
| ブレーキフルード. . . . . . . . . . | DOT 4 ブレーキとクラッチフルード |
| ベアリングおよびピボット. . . . . . | NLGI 2 仕様を満たしたグリース |
| ドライブチェーン. . . . . . . . . . | O リングチェーンに適したチェーンスプレー |

# 索引（あいうえお順）

# 索引（あいうえお順）